

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.19 2007年度



The Board of Education in Oita City 2008

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.19 2007 年度

The Board of Education in Oita City 2008

序 文

本書は、平成 19 年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査の概要を収録したものです。

大分市は、古代には豊後国の国府がおかれ、また大分・海部両郡の郡衙もおかれるなど、古くから大分の政治的中心地として栄えてきました。このため祖先たちが残した文化財も数多く、埋蔵文化財については現在 417 地点が周知されています。

平成 19 年度には、大分市中心部に程近い駅南地区で、重要な発見がありました。大分駅南の大道遺跡群では上地区画整理事業に伴って平成 13 年度から継続的に発掘調査が実施されてきましたが、今から約 1700 年前の古墳時代初め頃には大規模な環濠集落がつくられていたことがわかりました。ここでは、同じ時代につくられた全国でも希少なほぼ完全な形のクスノキ製臼も出土し、注目されました。また、約 1200 年前の平安時代初め頃の、官衙遺構が発見され、近くにあったと思われる豊後国府との関連が強く想定されています。平成 12 年度に国史跡に指定されて発掘調査が続けられている大友氏館跡では、中心建物部分の発掘調査が行われ、15 世紀以降の建物の変遷が明らかになってきました。ようやく大友氏館の具体的な変遷が語れるようになってきたといえます。

市内東部の横尾貝塚は、平成 12 年度に水場の遺構や世界でも希少なカゴ入り黒曜石が出土して注目されましたが、平成 20 年度には国指定史跡に指定される運びとなりました。これに先立ち、平成 19 年度には「おおいたん縄文 ーはり絵で創ろう！横尾貝塚の縄文集落ー」と題して、親しみやすい形で横尾遺跡を知っていただくことをめざしたイベントを開催いたしました。国史跡に指定されたことを受け、横尾貝塚につきましても市民の皆様のご協力のもと、整備活用を着実に進めてまいります。

最後になりましたが、本書が市民の皆様に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成 20 年 12 月 26 日

大分市教育委員会

教育長 足立一馬

例言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成19年4月1日～平成20年3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する事業内容についてまとめた年報である。
2. 平成19年度における調査地点は、第2図および第4表に示している。
3. 本書の執筆は、各調査担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第IV章の受贈図書一覧は、平成19年4月1日～平成20年3月31日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、山下朋紀（大分市教育委員会文化財課嘱託）による。
5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会臨時職員が行ったものである。

佐藤良子、中山麻里子、稲穂美香、秋山かおる、小島愛、青木里水、加藤眞優美、佐藤久美、橋本千代美、倉増美智代、永井勝代、平田ちはる（順不同）
6. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
7. 本書の編集・構成は、高畠および各調査担当者が行った。
8. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市教育委員会文化財資料室に保管している。
9. 大友氏関連遺跡の調査・名称については、その構成要素である町屋部分を「中世大友府内町跡」とし、この範囲に含まれる「大友氏館跡」ならびに「旧万寿寺地区」は、個別に調査次数を付する。
10. 本書中第3章・第4章で使用した調査地点位置図のうち、特に断りのないものは、大分市都市計画図（1/10000）である。

本文目次

第1章	大分市教育委員会教育総務部文化財課概要	1
1	沿革	1
2	組織	1
3	大分市文化財保護審議会	2
第2章	平成19年度事業概要	3
1	開発事前審査事業	3
2	発掘調査事業	5
3	教育普及活動	9
第3章	発掘調査の概要	10
	大友氏館跡第20次調査	10
	旧万寿寺地区第4次調査	11
	中世大友府内町跡第81次調査	12
	府内城・城下町跡第18次調査	13
	大道遺跡群第22次調査	14
	大道遺跡群第23次調査	15
	大道遺跡群第24次調査	17
	宮苑井ノ口遺跡第4次調査	18
	千代丸古墳・宮苑遺跡	19
	賀来条里跡	20
	木上石切場跡確認調査・測量調査	24
	横尾遺跡群第126次・127次・128次調査	28
	横尾遺跡群第129次・130次・131次調査	29
	横尾遺跡群第132次調査	30
	野間8号墳	31
	丹生遺跡群(第12地点)	34
	丹生川・坂ノ市条里跡(第11地点)	35
	丹生川・坂ノ市条里跡(第13地点)	36
	城原・里遺跡第11次調査	37
第4章	付篇	38
	付篇1 大分市池の平出土の土師器壺	38
	付篇2 大分市西寒多神社所蔵の土器群	39
	付篇3 大分市碗山出土の弥生土器	42
第5章	受贈図書目録	45

挿 図 目 次

第1図 地域区分図	3
第2図 地区別事前審査割合(件数)	4
第3図 地区別事前審査割合(面積)	4
第4図 調査遺跡位置図	6
大友氏館跡第20次調査	
第5図 調査地点位置図	10
第6図 調査区全景(南から)	10
第7図 SX065 遺物出土状況(西より)	10
旧万寿寺地区第4次調査	
第8図 調査地点位置図	11
第9図 万4SX150 検出状況(西より)	11
第10図 万4SX150 土層堆積状況(北西より)	11
中世大友府内町跡第81次調査	
第11図 調査地点位置図	12
第12図 調査区全景空中写真	12
第13図 調査区東半柱穴群及びSO60 検出状況	12
府内城・城下町跡第18次調査	
第14図 調査地点位置図	13
第15図 A区全景(1面目)	13
第16図 A区 掘立柱建物検出状況	13
第17図 A区 SE085 井筒検出時	13
大道遺跡群第22次調査	
第18図 調査地点位置図	14
第19図 調査区全景(西から)	14
第20図 SE016 完掘状況	14
大道遺跡群第23次調査	
第21図 調査地点位置図	15
第22図 調査区全景(南から)	15
第23図 SB005(北西から)	15
第24図 大道遺跡群第23次調査検出遺構図	16
大道遺跡群第24次調査	
第25図 調査地点位置図	17
第26図 調査区全景(南から)	17
第27図 SE008 出土木製白・半月形木製品	17
宮苑井ノ口遺跡第4次調査	
第28図 調査地点位置図	18
第29図 調査区全景空中写真(上が北)	18
第30図 調査区全景(東より)	18
千代丸古墳・宮苑遺跡	
第31図 調査地点位置図	19
第32図 墳丘西側溝状遺構(北が上)	19
第33図 古墳周深南壁土層(北より)	19

賈来桑里跡

第34図 調査地点位置図	20
第35図 完掘状況(南より)	20
第36図 遺構配置図	21
第37図 SO01 完掘状況(南東より)	21
第38図 SO40 上層断面状況(南西より)	21
第39図 掘立柱建物跡平面・見通し図	22
第40図 SO45 平面・断面図	23
第41図 SO45 遺物出土状況	23
第42図 出土遺物実測図	23
木上石切場跡確認調査・測景調査	
第43図 調査地点位置図	24
第44図 S-3 採石状況1	24
第45図 S-3 採石状況2	24
第46図 S-1 ウーヒトの足跡 採石状況	24
第47図 S-2 採石状況	24
第48図 石切場跡確認調査・測景調査位置図	25
第49図 石柱近景(北東から)	27
第50図 石柱近景(東から)	27
第51図 石切場跡測量図	27
横尾遺跡群第126次・127次・128次調査	
第52図 調査地点位置図	28
第53図 第127次調査区(上が北)	28
第54図 第127次調査建物群(西より)	28
横尾遺跡群第129次・130次・131次調査	
第55図 調査地点位置図	29
第56図 第130次調査区(南より)	29
横尾遺跡群第132次調査	
第57図 調査地点位置図	30
第58図 ビット列検出状況(西より)	30
野間8号墳	
第59図 調査地点位置図	31
第60図 試掘トレンチ配置図	31
第61図 野間8号墳近景(西から)	32
第62図 試掘トレンチ①(西から)	32
第63図 試掘トレンチ②(北西から)	32
第64図 試掘トレンチ②西壁上部	32
第65図 試掘トレンチ土層図	32
第66図 試掘トレンチ②西壁遺物出土状況	33
第67図 試掘トレンチ出土円筒埴輪片	33
丹生遺跡群(第12地点)	
第68図 調査地点位置図	34
第69図 第12地点全景空中写真	34
第70図 SX003 遺物出土状況	34

丹生川・坂ノ市桑里跡（第11地点）	
第71図	調査地点位置図 35
第72図	第11地点全景 35
第73図	遺構完掘状況 35
丹生川・坂ノ市桑里跡（第13地点）	
第74図	調査地点位置図 36
第75図	第13地点全景空中写真 36
第76図	溝（SD010）および堀列 36
城原・里遺跡第11次調査	
第77図	調査地点位置図 37
第78図	調査区全景 37
第79図	SH005 遺物出土状況 37
付録1	
第80図	発見地点位置図 38
第81図	土器出土地（中央の畑地） 38
第82図	出土遺物実測図 38
第83図	出土遺物（土師器壺） 38
第84図	出土遺物底部 38
付録2	
第85図	西塞多神社位置図 39
第86図	土器実測図1 40
第87図	土器実測図2 41
付録3	
第88図	位置図 42
第89図	立会地点実測図 42
第90図	土器実測図 43
第91図	遺物出土状況 44
第92図	瀬戸内系壺 44
第93図	瀬戸内系壺口縁部 44

表 目 次

第1表	開発事前審査件数一覧 4
第2表	大分市平成19年度発掘調査地一覧 7
第3表	大分市平成19年度試掘・確認調査・ 立会調査地一覧 7

第1章 大分市教育委員会教育総務部文化財課概要

第1章 大分市教育委員会教育総務部文化財課概要

1. 沿革

昭和51年4月1日	大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和59年6月28日	大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成5年4月1日	大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
平成10年4月1日	大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
平成12年4月1日	大分市教育委員会文化財課に改組
平成13年4月1日	大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組

2. 組織

次長兼課長	玉永光洋	大分市歴史資料館
参事	岩田祐治	参事兼館長 讃岐和夫
管理係	課長補佐兼係長 福田誠一	課長補佐兼副館長 久多羅岐 明
主査	幸 俊昭 桑原 治	副館長 後藤典幸
	筒井和信（平成20年12月～）	主査 広岡道代 安部幹夫
指導主事	姫野公徳 植木和美	主査 武富雅宣
主任	栗田博之 加藤キヌ	指導主事 甲斐 猛
	竹中智美	研修教諭 瀧口佳代
文化財係	課長補佐兼係長 塔鼻光司	事務員 仲矢咲紀
専門員	坪根伸也 池邊千太郎	嘱託 古瀬美鈴 大平直子
主任技師	塩地潤一 河野史郎	通山志賀子 細井雅希
	高畠 豊 中西武尚	北原 洋之 安部和広
主任	永松正大	
主事	佐藤道文 五十川雄也	
	古川 匠 長 直信	
嘱託	井口あけみ 稗田智美 奥村義貴	
	羽田野達郎 佐藤孝剛 三嶋桂司	
	羽田野裕之 山本哲也 若林善満	
	山下朋紀 五十川慎也 上原翔平	
	仲町憲治 宮崎 勲 廣瀬育子	

大分市教育委員会事務局組織規則(抜粋)

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利家記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員(平成18年4月1日現在)

氏名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学・教授(会長)	建造物
豊田 寛三	大分大学・教授(副会長)	近世
下村 悟	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元口	広島大学・助教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業専門学校・助教授	中世
宗像 健一	大分市美術館・顧問	美術
吉田 稔	王子中学校・元校長	
渡部 文雄	大分県立歴史博物館・副館長	
段上 達雄	別府大学・教授	
渡部 ひろ美	大分県立大分南高等学校・教諭	

大分市文化財保護審議会条例(平成11年12月15日条例第42号)

(設置)

第1条 文化財保護法(昭和25年法律第214号)第190条第1項の規程に基づき、大分市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に大分市文化財保護審議会(以下「審議会」という)を置く。(平17条例13の一部改正)

(組織)

第2条 審議会は、委員10人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議(以下「会議」という。)は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聴くことができる。

(部会)

第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

(大分市文化財調査委員会条例の廃止)

2 大分市文化財調査委員会条例(昭和51年大分市条例第4号)は廃止する。

附則(平成17年条例第13号)

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

第2章

平成19年度事業概要

1 開発事前審査事業

(1) 平成19(2007)年度の概要

第1表は平成19年度における開発申請内容を示したものである。

平成19年度の申請総面積は1,954,119.07㎡、総申請件数は131件を数える。

その内訳は、開発計画事前審査申請14件、開発行為事前協議申請65件、宅地造成工事前協議申請14件、土地売買等の届出26件、森林法第10条の21第1項による開発行為の許可について4件、墓地変更許可申請に関する事前協議について3件、砕石法第33条の6に基づく意見の聴取等2件、土砂等のたい積行為にかかる事前協議申請書について3件である。また、本年度は開発行為事前審査申請、大規模土地取引事前指導申請については昨年度に引き続き申請件数が0件であった。

これを平成18年度の申請内容と比較すると、総件数では7件、約7%の増加となっている。宅地造成工事前協議申請が前年度より11件減であった一方、開発計画事前審査申請や土地売買等の届出などは増加しており、また新たに土砂等のたい積行為にかかる事前協議申請書についてが3件加わるなどしたため、全体では微増となった。

一方、一昨年度から昨年度にかけて大幅に増加してきた申請面積は、本年度は大幅な減少に転じ、ほぼ半減することとなった。これは、昨年度大幅増加の要因となった鉱業権の出願に関する協議が本年はなかったことによるところが大きい。これに伴い植田地区では申請面積が大幅に減少した。

申請エリアに関しては、植田地区が昨年度より大幅に減少したものの依然42%を占める一方、大南地区は大幅に増加して26%を占めている。これら2地区については1件あたりの面積が大きい砕石法関連や土砂のたい積行為にかかる事前協議申請書についてがその要因となっている。実質的な開発申請である開発事前協議や宅地造成工事前協議申請については、開発事前協議が明野、大南、坂ノ市地区で昨年度より減少する一方で、大南地区で大幅に増加するなど各地で増加し、全体では面積比50%近い大幅増であったのに対し、宅地造成工事前協議申請については大南地区で増加したのを除いて各地で減少し、面積比44%の大幅減となっている。土地売買等の届出に関しては面積比約13%の増加となっており、実質的な開発行為については全体として依然増加傾向にあるといえよう。

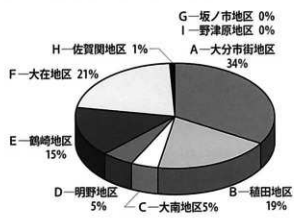
発掘調査件数と関係の深い大分市街地区については宅地造成工事前協議申請は件数・面積ともに減少したものの、開発計画事前審査申請、開発行為事前協議申請、宅地造成工事前協議申請、土地売買等の届出はいずれも件数・面積ともに増加している。今後の発掘調査件数の推移が注目される。



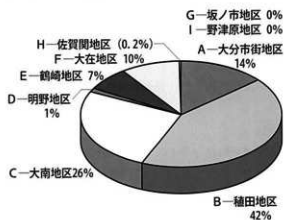
第1図 地域区分図

第1表 開発事前審査件数一覧

地区名	A-大分市街地区	B-稲田地区	C-大南地区	D-明野地区	E-鶴崎地区	F-大在地区	G-坂ノ市地区	H-佐賀関地区	I-野津原地区	合計
【開発計画事前審査申請】										
件数	4	0	0	1	4	0	0	0	0	14
面積(m ²)	133633.09	0	0	8625.88	32109.78	91022.01	0	0	0	285390.73
【開発行為事前審査申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【開発行為事前協議申請】										
件数	18	31	2	3	32	38	0	1	0	65
面積(m ²)	52818.79	128646.69	1385.45	5515.33	49098.41	63022.47	0	4645	0	305131.84
【開発行為変更前協議申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【大規模土地取引事前指導申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【宅地造成工事事前協議申請】										
件数	7	3	1	2	1	0	0	0	0	14
面積(m ²)	7805.63	5284.58	10088	1330.73	862	0	0	0	0	23779.94
【森林法第10条の2第1項による開発行為の許可について】										
件数	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4
面積(m ²)	0	50937	32540	0	13779	0	0	0	0	97278
【土地売買等の届出】										
件数	14	6	0	1	1	4	0	0	0	26
面積(m ²)	69879.28	16929.11	0	2865.33	2805	23769.2	0	0	0	116348.2
【墓地経営に関する事前審査】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【墓地営業許可申請に関する事前協議について】										
件数	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
面積(m ²)	4099	2959.26	0	0	0	0	0	0	0	7058.26
【砂石法第33条の4に基づく意見の聴取等】										
件数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
面積(m ²)	0	6268.72	431068	0	0	0	0	0	0	1057740
【鉱業権の出願に関する協議】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【公共施設の設置計画等協議】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【市街化調整区域における大規模開発について】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【地産地消推進許可事前審査届出について】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【本部署のたしあがり行為に係る事前協議申請書について】										
件数	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3
面積(m ²)	0	0	32091.9	0	37765.6	8145	0	0	0	78002.5
【総合計】										
件数	44	39	6	7	20	20	0	1	0	131
面積比	25%	19%	4%	5%	15%	21%	0%	1%	0%	100%
面積(m ²)	269026.74	831448.84	508173.35	18437.87	138419.79	185958.68	0	4645	0	1954119.87
面積比	14%	42%	26%	1%	7%	9%	0%	1%	0%	100%



第2図 地区別事前審査割合（件数）



第3図 地区別事前審査割合（面積）

2 発掘調査事業

平成 19 年度に行った発掘調査件数は 102 件である。その内訳は、試掘確認調査が 36 件、立会調査が 43 件、本調査が 23 件である。(第 2・3 表) 以下に、その概要について、時代ごとに報告する。

(旧石器・縄文時代)

本年度において、当該期のまとまった遺構・遺物は確認されていない。賀来条里跡において、縄文土器が若干出土した程度である。

(弥生時代)

宮苑井ノ口遺跡や横尾遺跡などで、当該期の遺構を確認している。

宮苑井ノ口遺跡では、沖積低地のなかに推定されている微高地の中心部で後期の竪穴住居跡を検出している。すでにこの周辺において同時期の竊墓も確認されており、集落構成を解明する大きな成果である。

横尾遺跡では、後期から古墳時代はじめ頃の粘土採掘坑を確認している。この場所のすぐ北側には、多武尾遺跡として知られる同時期の環濠集落跡があり、その関連が注目される成果である。

この他にも、陀山山頂遺跡での立会調査では、谷部から弥生時代後期後半以降の土器が出土しており、台地上に当該期のまとまった遺跡の存在を示唆するものである。

(古墳時代)

宮苑遺跡や野間古墳、そして大道遺跡群や城原・里遺跡などで当該期の遺構を確認している。宮苑遺跡の調査は、国指定史跡千代丸古墳の範囲確認調査を目的として実施したもので、周濠と考えられる溝状遺構を検出している。出土遺物が皆無であり、遺構の年代を確認することはできていない。

野間古墳の調査は、詳細な場所が分からない 8 号墳の確認を目的として実施したもので、その所在地を確認することができている。

本年度において、当該期の成果として特に注目されるものが、大道遺跡群の調査成果である。大道遺跡群では、前期の環濠や井戸跡などが認められ、井戸跡から全形が分かる木製の臼と蓋と推定される半月形板状の木製品が出土している。その造りは丁寧で、鉋による精緻な加工が施されている。また、国立歴史民俗博物館による年代測定も行われており、臼材の伐採年代が明らかとなっている。

この他にも、城原・里遺跡や宮苑・井ノ口遺跡において、竪穴住居跡を検出している。

(古 代)

大道遺跡群や横尾遺跡などで、当該期の遺構を確認している。これらは、8 世紀末頃から 9 世紀代のものが主体で、ほぼ同じ方向に建てられた掘立柱建物跡が検出されている。大道遺跡群では南北方向、横尾遺跡では東西方向の建物跡がそれぞれ 10 棟ほど確認され、複数時期にわたる建物の変遷が認められるなかで、両者ともに建物の方向があまり変化していない点が注目される。この他にも、横尾遺跡では道路状遺構と考えられる帯状につながる柱穴群が認められ、丹生遺跡群では全形が分かる移動式竈が出土している。

(中 世)

中世大友城下町跡を中心に、横尾遺跡や賀来条里跡や丹生川・条里跡において当該期の遺構を確認している。そのなかでも、国指定史跡大友氏館跡と万寿寺跡の調査成果は特筆され、国指定史跡大友氏館跡では、16 世紀後半に大型建物関連遺構が形成される館の中心部の高まりが 15 世紀には存在し、その後掘り込み整地を繰り返しながら 16 世紀後半頃まで存続したことが判明した。この掘り込み整地は、最初の 15 世紀代に行われたものが最も大規模で、大友館の形成に関わる重要な成果と考えられる。

国指定史跡万寿寺跡では、基壇などの構造物に関わるものと推定される大規模な掘り込み地業跡が確認され、これまでの調査成果を踏まえ、禅宗式伽藍配置を示唆する成果があげられている。

中世大友府内町跡では、町屋の北側において掘立柱建物跡や溝状遺構をはじめ、土坑墓などを確認している。これらは、後述する府内城・城下町を囲む土塁が形成されたため、17世紀初頭頃には廃絶したものと判断される。

また、横尾遺跡では、16世紀後半頃に形成された半町規模の方形館に隣接して、新たに館の存在を表付ける遺構群が確認され、賀来条里跡では、中世賀来荘における14世紀後半から15世紀にかけての建物群、丹生川・条里跡では、14世紀代の掘立柱建物群と土橋のある溝状遺構など注目される遺構群が検出されている。

(近 世)

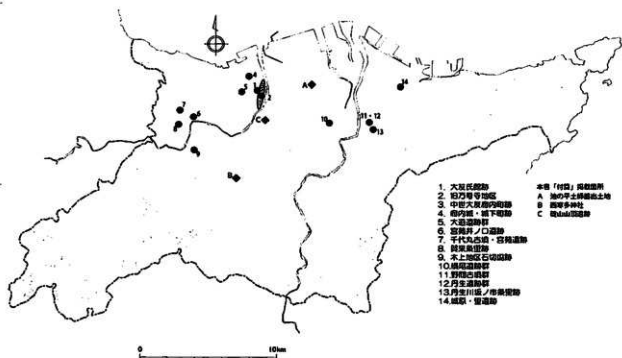
中世大友府内町跡と府内城・城下町において当該期の遺構を確認している。

とりわけ両者ともに江戸初期の調査成果が特筆され、中世大友府内町跡では、先述のとおり府内城・城下町を囲む17世紀初頭頃の土塁跡、府内城・城下町においては、規則的に並ぶ大型の掘立柱建物跡を確認している。

また、18世紀から幕末頃の遺構については、両者ともに重複する廃棄土坑をはじめ、井戸跡や道路状遺構など大型の遺構が密集して検出されている。

この他にも、詳細な年代について解明できていないものの、木上地区で実施した石切り場跡の確認調査が注目される。凝灰岩の露頭の裾部に堆積した碎石屑は厚く、下位のより古い採掘坑を検出することが困難となることから、同様の遺跡について記録作成のために発掘調査を行う場合は、事前に十分な検討が必要である。

(墓地)



第4図 調査遺跡位置図

第2表 大分市平成19年度発掘調査地一覧

調査地点	遺跡名	所在地	調査担当者	調査面積	調査期間	種別	事業内容
1	大友氏館跡第20次	大分市鶴田町	長 五十川 (横)	650	070725～071117	国庫補助事業	市内道路
2	旧万寿寺地区第4次	大分市大字大分	長 五十川 (横)	240	071116～071225	国庫補助事業	市内道路
3	中世大友府内町跡第81次	大分市長浜町	吉川 山下	397	070618～070822	民間開発	マンション建設
4	府内城・城下町跡第18次	大分市南郷町	佐藤 三島	404	070702～070831	民間開発	ホテル建設
5	大道路跡群第22次	大分市金池南	高島 羽田野 上原	573	070702～070723	公共事業	区画整理
5	大道路跡群第23次	大分市金池南	高島 羽田野 上原	4152	070724～071201	公共事業	区画整理
5	大道路跡群第24次	大分市金池南	高島 羽田野 上原	658	080204～080325	公共事業	区画整理
6	宮免井・口道路第4次調査	大分市大字宮免	中西 若秋	375	070611～070830	民間開発	集合住宅
7	千代久古墳・宮免遺跡	大分市大字宮免	吉川 山下	73	080110～080201	国庫補助事業	市内道路
8	賀東条里跡	大分市大字東院	池邊 三島 羽田野 (新)	330.6	071210～071214	民間開発	個人住宅
9	木の上地区石切場	大分市大字木上・田原	堀地 佐藤		070425～070502	民間開発	宅地造成
9	木の上地区石切場	大分市大字木上・田原	中西 若秋 (孝)	1400	070523～070625	民間開発	宅地造成
10	横尾遺跡第126次	大分市大字横尾	河野 泰松 山本	1020	070723～071009	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第127次	大分市大字横尾	中西 若秋 山本	2610	070723～071009	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第128次	大分市大字横尾	河野 泰松 山本	670	070723～071009	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第129次	大分市大字横尾	中西 佐藤 (孝) 五十川 若秋	3230	071105～080225	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第130次	大分市大字横尾	中西 若秋	250	071105～080225	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第131次	大分市大字横尾	五十川 佐藤 (孝)	500	071105～080225	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第132次	大分市大字横尾	長 五十川 (横)	840	071217～080218	公共事業	区画整理
11	野間号墳	大分市大字丹川	永松 山本	6	070405～070525	公共事業	掘削整備
12	丹生遺跡群(第12地点)	大分市大字丹川	永松 山本	382	070701～080131	公共事業	掘削整備
13	丹生川原・市桑里跡(第11地点)	大分市大字丹川	永松 山本	289	070701～080131	公共事業	掘削整備
13	丹生川原・市桑里跡(第13地点)	大分市大字丹川	永松 山本	1007	070701～080131	公共事業	掘削整備
14	城原・里道路第11次	大分市大字城原	佐藤 奥村	250	071126～071207	国庫補助事業	市内道路

第3表 大分市平成19年度試掘・確認調査・立会調査地一覧

番号	種別	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査理由
1	立会(民間)	下郡遺跡群	大分市下郡中央1丁目4-6	16	07.04.09	共同住宅建設
2	立会(民間)	賀東条里跡	大分市賀東条里地区区画整理事業B-4 1.2	4	07.04.09	ガソリンスタンド建設
3	確認(民間)	上野大友館(上原館)跡	大分市大字上野丘西373番地8	25	07.04.11	個人住宅建設
4	確認(民間)	上野遺跡群	大分市大字上野丘307-1・307-2・309-3・309-7	25	07.04.23	保育園増築
5	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字美田寺河角 650-4 650-8 651-4	11	07.04.26	共同住宅建設
6	立会(民間)	下郡遺跡群	大分市下郡中央2丁目286-2	2.23	07.05.16	個人住宅建設
7	確認(公共)	尾崎遺跡	大分市大字小池原明治北小学校内	28	07.05.23～24	学校施設建設
8	確認(公共)	尾崎遺跡	大分市大字小池原明治北小学校内	28	07.06.12～13	学校施設建設
9	立会(民間)	中世大友府内町跡	大分市鶴田町2丁目3番15号	0.5	07.06.18	店舗建設
10	確認(民間)	北遺跡群	大分市大字青崎1丁目348番地	9	07.06.19	工場建設
11	確認(民間)	上野遺跡群	大分市大字東上野丘百合野210番3・210番4	0.35	07.06.19	個人住宅建設
12	立会(民間)	牧道跡	大分市牧1丁目177	2	07.06.19	共同住宅建設
13	立会(民間)	宮免井・口道路	大分市大字賀東条里1丁目454-1	6	07.06.26	共同住宅建設
14	立会(民間)	二井川遺跡	大分市横尾3885番1地内	1.4	07.07.10	公共下水道建設
15	立会(公共)	庄ノ原片面遺跡	大分市大字佐藤字深河1573番10, 11	6	07.07.10	掘削整備
16	確認(民間)	米竹遺跡	大分市大字千歳土井1796-1, 1797-1, 1797-2	28	07.07.13	宅地造成
17	確認(民間)	米竹遺跡	大分市大字千歳1790番地	57.6	07.07.18～19	宅地造成
18	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字田中404番1	8	07.07.20	店舗建設
19	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字田中404番1	10	07.07.20	店舗建設
20	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字訓子町113番6	12	07.07.20	個人住宅建設
21	確認(民間)	浜道跡	大分市大字沙見1丁目297番・298番	14	07.07.23	共同住宅建設
22	確認(公共)	賀東条里跡	大分市大字中尾字柳原495番	22	07.07.27	校区公民館建設
23	立会(民間)	猪野遺跡	大分市大字猪野字南角750番1	30	07.08.02	個人住宅建設
24	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字花園12番の2	24	07.08.02	個人住宅建設
25	確認(公共)	府内城・城下町跡	大分市南郷町21番 22番	24	07.08.06～10	庁舎駐車場建設
26	立会(民間)	弊家遺跡	大分市勢家町4丁目6番87号	9	07.08.10	その他建物

番号	種別	道路名	所在地	面積 (㎡)	調査期間	調査内容
27	立会(民間)	古河町道路	大分市大字古河町430-1,430-2,430-3	18	07.08.17	個人住宅建設
28	雑居(民間)	玉沢地区東部路	大分市大字中島町1	102	07.08.20~21	店舗建設
29	雑居(民間)	玉沢地区東部路	大分市大字新田町中心中央土地区内管理事務所敷地内	24	07.08.21	店舗建設
30	立会(公共)	丹川坂/市島路	大分市大字小井戸3丁目1番18号	5	07.08.24	児童育成クラブ建設
31	立会(民間)	新内城-城下町路	大分市中央町1丁目55番地	25	07.08.27	小売店建設
32	立会(民間)	二日川道路	大分市大字新田町新田町302,303,1,7,8	10	07.08.28	店舗建設
33	立会(民間)	古河町道路	大分市大字古河町430-1,430-2,430-3	19	07.09.01	共同住宅建設
34	立会(民間)	横道路2	大分市玉沢1丁目164番,165番	12	07.09.05	共同住宅建設
35	雑居(民間)	横道路2	大分市玉沢1丁目164番,165番	12	07.09.05	共同住宅建設
36	立会(民間)	中世大坂内内町路	大分市金地町1472番	6,64	07.09.05	個人住宅建設
37	立会(民間)	丹川坂/市島路	大分市大字新田町字下4320-4440-4441-4442	42	07.09.07	店舗建設
38	雑居(民間)	上野大坂(上野町)路	大分市上野町300番	15	07.09.12	個人住宅建設
39	雑居(公共)	丹川坂/市島路	大分市久保町1丁目	79	07.09.18~19	公園整備
40	雑居(民間)	新田道路	大分市大字新田町玉沢田612-5	18	07.09.25	店舗建設
41	雑居(民間)	新田道路	大分市大字新田町字新田町467番	18	07.09.27	共同住宅建設
42	立会(民間)	玉沢地区東部路	大分市大字本上小井戸405,406	78	07.10.03	宅地造成
43	立会(公共)	本井道路	大分市大字千歳地先	15	07.10.09~26	公共下水道建設
44	立会(公共)	中世大坂内内町路	大分市金地町2丁目102番	12	07.10.11~12,25	公共下水道建設
45	雑居(民間)	中世大坂内内町路	大分市金地町5丁目320-1	22	07.10.19	店舗建設
46	立会(民間)	丹川坂/市島路	大分市大字坂/市島段1975-2	10	07.10.23	共同住宅建設
47	雑居(公共)	横道路2	大分市横道1丁目	140	07.10.29~11.01	公園整備
48	立会(公共)	古河町道路	大分市大字古河町字	61	07.11.05	公共下水道建設
49	雑居(民間)	古河町道路	大分市大字永興寺字上戸原104番	15	07.11.07	共同住宅建設
50	立会(民間)	横道路	大分市大字横道1丁目175-2 175-3	2	07.11.09	共同住宅建設
51	立会(公共)	横道路2	大分市横道2丁目	8	07.11.09~08.31	公共下水道建設
52	立会(民間)	新田道路	大分市大字新田町字久保田1043-8,1043-10	10	07.11.15	個人住宅建設
53	雑居(民間)	宮尾井/口道路	大分市大字宮尾井/口73	40	07.11.20~21	共同住宅建設
54	立会(公共)	上野大坂(上野町)路	大分市大字上野町305-3番地先	27	07.11.26~12.27	公共下水道建設
55	立会(民間)	中世大坂内内町路	大分市金地町3丁目1384-1	4	07.11.29	共同住宅建設
56	雑居(民間)	横道路	大分市横道2丁目367番地	26	07.12.03	共同住宅建設
57	立会(民間)	新田道路	大分市大字新田町字415番1・416番1・416番4・416番10	10	07.12.19	個人住宅建設
58	雑居(民間)	横道路	大分市大字砂見2丁目565番3	15	07.12.27	個人住宅建設
59	立会(民間)	玉沢地区東部路	大分市大字下宗方字河原794番1・796番1	10	08.01.09	電線杆設置
60	立会(民間)	古河町道路	大分市大字新田町字小井戸41番2	3	08.01.15	共同住宅建設
61	立会(公共)	古河町道路	大分市大字下宗方町10番地 地	6	08.01.20	公共下水道建設
62	雑居(民間)	新田道路	大分市大字宮尾井/口200番	16	08.01.23	電線杆設置
63	雑居(民間)	本井道路	大分市大字本井町中423番1・423番2	68	08.01.30	宅地造成
64	雑居(民間)	上/原北道路	大分市大字丹波字新田1067-1地2第	60	08.02.06~06	宅地造成
65	立会(民間)	新内城-城下町路	大分市大字新田町	3	08.02.09	ガス管敷設
66	立会(公共)	古河町道路	大分市大字新田町字415番2地先	12	08.02.09	公共下水道建設
67	立会(民間)	中世大坂内内町路	大分市金地町2丁目5-4	25	08.02.12	個人住宅建設
68	立会(民間)	二日川道路	大分市大字新田町新田町301番9	8	08.02.14	個人住宅建設
69	雑居(民間)	横道路	大分市大字横道2丁目171番の一-176番	26	08.02.15	共同住宅建設
70	立会(民間)	新内城-城下町路	大分市横道町3	3	08.02.16~18	NTT通信管理施設
71	立会(民間)	古河町道路	大分市大字新田町字上戸原687番1	4	08.02.18	共同住宅建設
72	雑居(公共)	横道路	大分市横道1丁目	26	08.02.19~20	公園整備
73	立会(民間)	丹川坂/市島路	大分市大字新田町302番地	2	08.02.25	コンクリート水溝建設
74	雑居(民間)	古河町道路	大分市大字新田町字玉沢田612-2 616	67,8	08.02.27~29	店舗建設
75	雑居(民間)	丹川坂/市島路	大分市大字丹川町下駄187番3	18	08.02.31	共同住宅建設
76	立会(民間)	丹川坂/市島路	大分市大字新田町新田町425	10	08.03.04	工場建設
77	雑居(民間)	本井道路	大分市大字新田町字144番・145番・146番	35	08.03.11	店舗建設
78	雑居(公共)	新内城-城下町路	大分市上野町1番地	80	08.03.13	学校グラウンド敷設
79	雑居(民間)	中世大坂内内町路	大分市金地町5丁目1-1	13	08.03.28	個人住宅建設

3 教育普及活動

(1) 大分市文化財だより 2007 年号の発行

平成 3 年度から発行を続けている文化財だよりの 2007 年号(第 16 号)の作成、配布を行った。

今回の特集は、大分市歴史資料館開館 20 周年記念特別展の「時代を駆けた風雲児 松平忠直展」に視点を当てた内容を取りあげ、市民に向けて広く情報の発信を図った。

- 内 容 ・時代を駆けた風雲児 松平忠直
・開発にあたっての遺跡の取り扱いについて
配布先 市内全戸

(2) 啓発活動

・ 大友氏遺跡関連フェスタ

日時：10 月 6 日(土) 場所：大分銀行赤レンガ館 参加者数：250 名

大友氏遺跡の調査成果及び遺跡の概要を広く市民に知ってもらうため、現地説明会及び公開展示、講演会を行った。

・ おおいたん縄文 ―はり絵で創ろう！横尾貝塚の縄文集落―

日時：8 月 25 日(土) 場所：コンパルホール文化ホール 参加者数：200 名

横尾貝塚の調査成果を広く市民に公開し、遺跡とその保護の重要性について周知を図るとともに、遺跡への関心を深めてもらうため、紙芝居を作成し、分かりやすく紹介したフォーラムを開催した。

(3) 現地説明会

今年度は、現地説明会を計 2 回開催し、延べ 350 人の参加を得た。

- ・ 大友氏遺跡現地説明会 日時：10 月 6 日 参加者数：200 名
- ・ 大道遺跡群現地説明会 日時：10 月 14 日 参加者数：150 名

(4) 講師の派遣

学校や公民館、一般団体の依頼により、文化財や地域の歴史等について、講師の派遣を行った。
件数：11 件

(5) 新指定文化財

市指定有形文化財として新規に 3 件指定された。

- ・ 霊山寺山門
- ・ 常楽寺文書
- ・ 光西寺真宗関係資料

4 海部古墳資料館

平成 12 年 4 月 28 日に開館した海部古墳資料館において、以下の事業を行った。

(1) 特別展

平成 19 年度の特別展は、「タイムトラベラー 2007 海を渡ったやきものくん」を 10 月 10 日から 11 月 25 日まで開催した。

入館者数：2980 名

(2) 入館者

団 体	6,147 人
個 人	7,407 人
合 計	13,554 人

I 大友氏館跡第20次調査

調査面積 650㎡
地域 A

調査期間 07. 07. 25～07. 11. 17
調査担当 長直信 五十川慎也

第20次調査は、推定大友氏館跡の中央部にあたる方形地割南側に位置する。これまでの調査同様、館の規模が最大となる16世紀後半の館内部の様相を把握することが主目的であることに変わりはないが、今回の調査では、17次調査で検出された中心施設と考えられる16世紀後半頃的大型建物関連遺構の南側延長部分の確認。17次調査で確認した16世紀代の掘り込み整地の分布範囲の確認と検証。館中心部における16世紀以前の土地利用状況の把握の3点を目的として調査をおこなった。今回の調査の大きな成果として①館17次で確認された掘り込み整地の南側の続きは検出されず、これとは別のプランとなる16世紀後半頃の掘り込み整地を確認した点（以下では、17次最後の掘り込み整地を「掘り込み整地①」、20次最後の掘り込み整地を「掘り込み整地②」と呼称する）。②館17次調査でその存在が示唆されていた15世紀末～16世紀初頭の掘り込み整地の存在が土層断面で確認できた点。③館20次では15世紀代の整地が少なくとも2度行われ、その一部は、「掘り込み整地②」や15世紀末～16世紀初頭の掘り込み整地に削られずに16世紀中頃～後半の遺構と同一レベルで確認されたことから、館中心部の「高まり」は15世紀には形成されていたことが分かった点である。以上のことから、現在、大友氏館跡と呼ばれるこの地が15世紀から16世紀後半まで連続と整地や掘り込み整地を繰り返しながら居住空間として使用されていたことが明らかとなり、この契機となる15世紀の最初の整地は最も規模が大きく、館中心部の高まりはこの段階ですでに形成されていた可能性が高まった。このことは大友館形成を知るうえで非常に重要な意味をもつものと考えられる。主要遺構として、根締め石と考えられる遺構SX145a・145bは17次調査の大型建物関連遺構の南側延長部分にあたり、建物遺構の南限となるものである。これから推測される大型建物関連遺構の規模は、東西15m+α、東西29m程度となる。また、この建物のそばには16世紀中頃のかわけ大量廃棄土坑SX065・SX070が存在し、SX065は、東西11m、南北2.6m、断面形状はV字で、最大深さ1.6mを測る巨大な遺構で、夥しい数の京都系土師器が出土した。今後の課題として、今回の調査では、15世紀から16世紀までの遺物が出土しているが、館形成のプロセスを読み解くうえで、豊後在地の土師器類を中心とした遺物の詳細な検討が今まで以上に必要となる。同時に大内氏館跡で集中的に出土する白色系土師器の府内での位置付けや、20次調査で出土した15世紀末の土器様相下で出土した京都系土師器皿の位置付けなども今後非常に重要な意味を持っていくと考えられ、遺物に主眼を置いた検討が重要となる。また、こうした土器の型式学的検討を行うなかで、土器様相にどのような暦年代を付与するべきか、遺跡の解釈のうえで最も重要な問題であり、慎重に考えていく必要がある。（長直信）



第5図 調査地点位置図



第6図 調査区全景（南から）



第7図 SX065 遺物出土状況
（西より）

Ⅱ 旧万寿寺地区第4次調査

調査面積 240㎡

地域 A

調査期間 07.11.16～07.12.25

調査担当 長直徳 五十川慎也

本調査区は万寿寺境内の推定伽藍中心軸上、万寿寺推定範囲のほぼ中央に位置する。調査の主眼は大友氏館跡同様、府内のまちの最盛期と考えられている16世紀後半の様相把握である。今回の調査目的は、この16世紀後半段階の万寿寺境内の伽藍配置を確認することである。調査の結果、最も特筆される事項は、大規模な掘り込み地業遺構万4SX150の検出である。万4SX150は、調査区中央より東側で検出した暗灰色系の土と黄色系の土が縞状に堆積する遺構である。調査区中央では北端を一部確認した。サブトレンチ1の土層観察からは、階段状に掘られた状態で、最も深いところで遺構面より約2.0mの深さをもつ。底から0.6mほどは黄色土・灰色土がやや水平に埋まり、これより上層は斜堆積になりながら、黄色系・灰色系の土で埋められている。万4SX150上面に展開する遺構の分布から、①15世紀代の遺構は調査区北側や東端に偏る傾向があり、調査区中央から南側では基本的には中世の遺構が展開しない。すなわち、掘り込み地業が行われた当初の段階（15世紀代）は、この地業の上に構造物（例えば盛土や基壇など）が覆っており、調査区の中央や南側は遺構が形成できないエリアとなっていたのではないかとと思われる。どの程度の広がりをもっていたかは明確ではないが、調査区西端で確認した中世の基盤層の存在から調査区全体の東西60m全体を覆うものではなかったようである。②16世紀代の遺構は調査区中央付近より東側には展開しない。中央付近より西では京都系土師器や赤絵が出土する万4SD120などが展開することから、①と同様の理由から万4SX150上部に遺構が分布しないエリアは16世紀後半の段階には中央付近に留まる可能性が高く、東西4.4m以上（東端は調査区外へ延びるため不明）となろうか。これらの点から、掘り込み地業SX150上面に展開する遺構の時期や分布範囲からみて、万4SX150は基壇などの構造物に関わる地業である可能性が考えられる。この点を踏まえてこれまでの万寿寺全体の調査成果全体と対比するなかで評価すると、16世紀後半段階の万4次SX150の推定プランと、町23次の基壇状遺構のプラン、万3次で検出した大型掘立柱建物や、府内古図に描かれる塔跡とされる区画とが直線的に並び、仏殿・法堂・方丈などの中心建物が直線的に配されるという禅宗伽藍配置を想起させ興味深い。今後は、この仮説を前提に万4SX150の規模確認を行う予定であるが、今回地業とした遺構は、古代寺院に見られるような版築を施した地業とは比較にならないほど粗い整地であることから、このような土木技術の類例を探る必要があろう。（長）



第8図 調査地点位置図



第9図 万4SX150 検出状況（西より）



第10図 万4SX150 土層堆積状況（北西より）

Ⅲ 中世大友府内町跡第81次調査

調査面積 397㎡

地域 A

調査期間 07.06.18～07.08.22

調査担当 古川匠 山下朋紀

中世大友府内町跡第81次調査地点は、大分市長浜町1丁目に所在する。集合住宅建設計画が立ち上がったことを受け、発掘調査を行う事となった。

調査区の西半分を中心として、19世紀半ばから近代の廃棄土坑群、トイレ遺構、井戸跡が数多く検出された。また、調査区は明治時代の地籍図に記される地割り線上に位置するが、この地割線上で、18世紀後半から19世紀前半頃に比定される、積土堆積と石組遺構が検出された。地籍図が踏襲する町道が少なくともこの段階まで存在したものと考えられる。

また、17世紀初頭頃の遺構として、慶長期の近世府内城下町整備に伴って形成された曲輪（土塁）跡が検出された。調査区東端で、南北方向の積土堆積が確認されたが、出土遺物の年代観から17世紀初頭段階に比定され、当該期に形成された土塁基部と考えられる。府内城・城下町跡第12次調査区では、この時期の整地層が一面を覆い、近世城下町形成に係る大規模な造成工事を示しているが、本調査区では整地層は検出されなかった。

16世紀末～17世紀初頭段階には、掘立柱建物が重複して2棟検出される。柱穴、柱穴の可能性のある規模の土坑が調査区東部北半部に集中的に分布しており、一般的な中世城下町の町家域とは様相が明らかに異なる。戦国期の舟入にほぼ面する立地との関係性を考慮すると、荷揚げ場に類する施設が存在したかもしれないし、また、舟入の向かいに「白杵悪六屋敷」が位置する事から、本調査地点も屋敷地であったかもしれない。これらの建物群は17世紀初頭に廃絶されるようである。また、掘立柱建物群は16世紀第4四半期をその上限とする。すなわち極めて短期間しか存続しないにも拘らずこの地点に複数回、建物が建て替えられた事になる。

また、17世紀初頭に調査地点は大きく場の機能を転換する事となる。この他、16世紀後半頃に、土坑墓が1基造営される。また、東西方向の大型溝を検出した。これらの溝は16世紀前半頃から、掘立柱建物の形成される、16世紀末頃まで存続したようである。（古川匠）



第11図 調査地点位置図



第12図 調査区全景空中写真



第13図 調査区東半柱穴群及びS060 検出状況 (北から)

IV 府内城・城下町跡第18次調査

調査面積 404㎡

地域 A

調査期間 07.07.02～07.08.31

調査担当 佐藤道文 三嶋桂司

今回の調査は、調査区を2つに分けて実施しており、その結果、それぞれの調査区で遺構の内容が異なっていることが判明した。まず、敷地北側のA区では、掘立柱建物跡、井戸跡、道路状遺構など生活の表空間の様相が濃い。南側のB区においては、便所状遺構、大型の廃棄遺構などが顕著で、生活の裏空間として使用されたエリアであることが想像できる。

A区では古代・中世・近世の3時期の遺構が確認されている。

古代の遺構は、井戸跡2基がある。出土遺物から9世紀前半～中頃に埋没したと考えられる。城下町内で、当該期の遺構が明確に確認されたのは初めてであり、当時から、人が生活可能な場であったことが判明した。市内中心部から上野台地にかけて展開する古代の遺跡の分布を見ると、調査地の立地は海・川に面し、陸地の先端地にあたる。

別府湾から入ってきた場合、最初に目にする施設である。よって、調査地周辺には、豊後に入ってくる際の表玄関的施設が存在する可能性が想定される。

近世の遺構は、17世紀代のものが注目される。大型の建物で規則的に配置されており、城下町初期整備段階の土地利用の在りかたを示す好資料といえる。

近世後半、18世紀代～幕末頃の遺構に関しては、火災処理土坑や廃棄遺構など大型のものが多く、武家屋敷を窺わせるような建物痕跡は認められなかった。

江戸時代の絵図と照合させると、三ノ丸西端の道路が調査でも確認されており、大分市史等にある推定範囲の信憑性を裏付けることとなった。(佐藤道文)



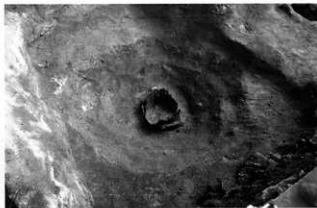
第14図 調査地点位置図



第15図 A区全景(1面目)



第16図 A区 掘立柱建物検出状況



第17図 A区 SE085 井筒検出時

V 大道遺跡群第22次調査

調査面積 573㎡

地域 A

調査期間 07.07.02～07.07.23

調査担当 高畠豊 羽田野達郎 上原翔平

今回の調査は、大分駅南土地区画整理事業における区画街路整備事業に伴って実施したものである。

調査の結果、弥生時代中期の土坑1、古墳時代の井戸3、周溝遺構1、古代の溝状遺構1などを検出した。

弥生時代の遺構は、土坑S003のみであり出土した刻目凸帯を有する甕から、弥生中期のものと推定された。近隣の東田室遺跡で検出されている当該期の貯蔵穴と類似していることから、同様の機能を有した可能性がある。

古墳時代の遺構としては、井戸跡がある。(S010・S011・S016)。これらはいずれも検出面からの深さが1m程であったが、井筒は検出されておらず、そのため、掘削後から廃絶までの間に、著しく崩落したのも見られた。これら3基は概ね布留式古段階に比定されるもので、大きな時間差はみられなかった。この他、周溝遺構S005も出土遺物から当該期に比定される可能性がある。この遺構は井戸跡S016を切ってつくられ、幅約1m程度の溝が東西約7.5m、南北約6.8mのやや不整な隅丸形状に廻るものである。

古代の遺構としては、調査区中央を斜行する溝S002があり、8世紀末～9世紀初頭に廃絶したものとみられる。N20.5°Wを指向し、最大幅1.8m、深さ0.4m程度である。このほか、出土遺物は僅少であるが、これと同一方向の溝が認められ(S013・S014)、当該期に比定される可能性がある。

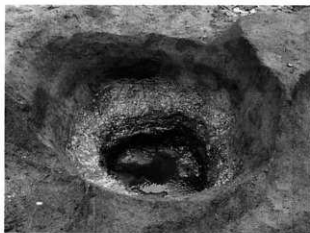
今回の調査では、当該地区ではこれまでで最古となる弥生時代中期の可能性がある遺構を検出し、さらに古墳時代、古代の遺構を検出した。特に、古墳時代の周溝遺構は、当地区では例の無いもので、その性格が注目される。調査地は少なくとも50cm以上の削平を受けているものと見られ、遺構の残りはよくないが、周辺7地点でのこれまでの調査成果をあわせ、報告時に検討を行いたい。(高畠豊)



第18図 調査地点位置図



第19図 調査区全景(西から)



第20図 SE016完掘状況

VI 大道遺跡群第23次調査

調査面積 4152㎡

地域 A

調査期間 07.07.24～07.12.01

調査担当 高島豊 羽田野達郎 上原理平

今回の調査は、駅南区画整理事業に伴い、大分駅旧南口東側一帯において本調査を実施したものである。

調査の結果、昨年度末に実施した第20次調査で検出されたものの延長にあたる古墳時代前期の環濠をはじめとする遺構群の他、官衙遺構と推定される古代の掘立柱建物群が検出された。

古墳時代の環濠は、昨年度の20次調査で検出されたものに連続して検出された(SD001)ほか、東側拡張調査区においてはほぼ同時期と推定される大溝(S170)が検出されており、一連の環濠と考えられる。出土遺物からは古墳時代前期中葉を中心とする時期に埋没したものと推定される。SD001は幅約3m、最大深約1mで多量の土器が廃棄されていた。一方東側のSD170は幅約2m、最大深約0.8mで削平が著しいためやや小規模であり、土器の出土量も比較的少なく、特に東端部分では少量の出土にとどまった。当該期の遺構としては他に井戸跡10基、廃棄土坑2基等があり、もっとも古いものとしては弥生時代後期後葉にまで遡るものがみられるが、調査区西南部の環濠周辺に集中している。環濠の平面的な位置からは、JR大分駅側に延びていたことが推定され、JR大分駅構内を中心とする場所を囲むように掘られていたものと考えられる。

古代の遺構群は、掘立柱建物14、柵列2、井戸3、堅穴遺構1が検出されており、このほか当該期の可能性のある溝3がある。掘立柱建物群は主軸方向により大きく2グループに分かれ、少なくとも3時期の変遷が考えられ、8世紀末～9世紀前半の時期幅に位置づけられる。最も大きい建物は2間×5間で身舎面積50㎡を超えるもの(SB005・SB007)であり、それぞれの時期における中心的な建物とみられる。遺構の広がりを確認するため東側に拡張して調査を実施したが、小規模な建物SB016が検出されたのみであち、東側にはこれ以上ほとんど広がらないものと考えられる。南側に隣接する第5次調査区においては、奈良三彩陶器壺や円面硯・転用硯、瓦が出土しているほか、幅7mもの当該期の大溝が検出されており、大溝の方は今回検出された建物群の一部とほぼ一致する。こうしたことから、これらの建物群は、何らかの官衙遺構と推定される。ただ、官衙特有の企画的な建物配置が認められないことから、官衙が有する一部機能を担う建物群と評価する方が妥当と思われる。(高島豊)



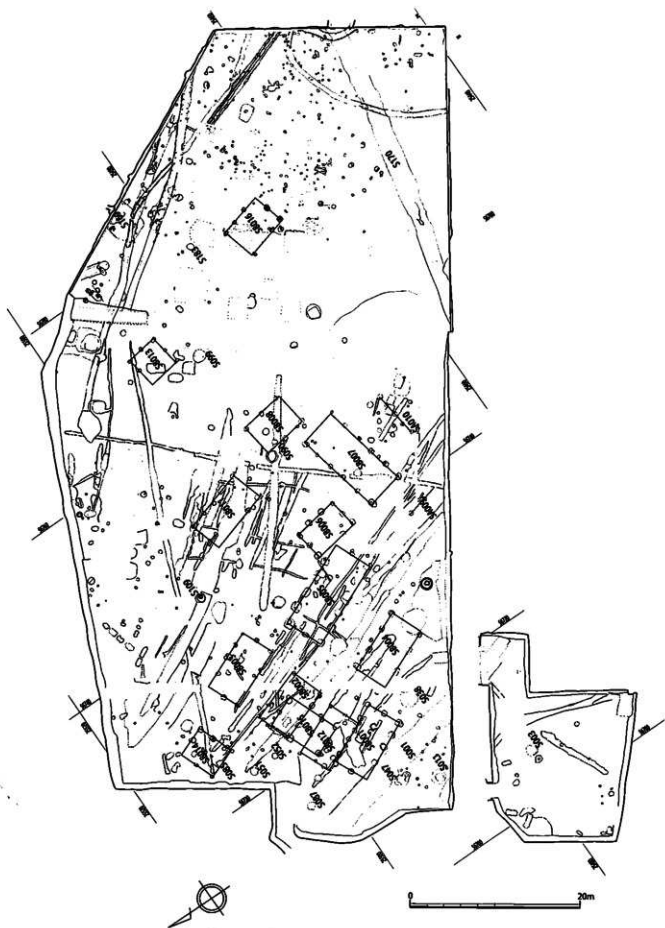
第21図 調査地点位置図



第22図 調査区全景(南から)



第23図 SB005(北西から)



第 24 図 大道遺跡群第 23 次調査検出遺構図 (1/300)

VII 大道遺跡群第24次調査

調査面積

658㎡

地域 A

調査期間

08.02.04～07.03.25

調査担当

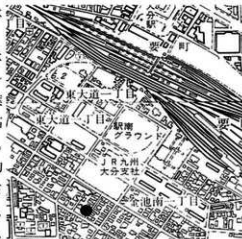
高畠豊 羽田野彦郎 上原理平

第24次調査では、古墳時代前期の井戸跡及び、古墳時代もしくは古代と推定される溝状遺構が検出された。

古墳時代の井戸跡は6基検出されているが、いずれも井戸枠等は検出されず素堀と考えられるものであり、検出面からの深さは0.8～1.0m程である。これらは、出土した土師器から、古墳時代前期前葉～中葉に位置づけられる遺構であると考えられる。井戸跡からは高い地下水位により良好に保存されていた有機物資料が多く出土した。特に、SE008から出土した木製臼は、当該期のものとしては全国的にも希少なほぼ完形のものであること、鉋により精緻な加工が施されていること、蓋と推定される半月形板状の木製品を伴うことなど、注目すべきものであった。樹種同定の結果、材質はクスノキであり、また、国立歴史民俗博物館による年代測定で伐採年代はAD269年頃と推定され、一定期間の使用の後に廃棄・埋没したことが判明した。隣接するSE007からは先端部の破片ではあるが、竪杵も出土している。

この他の遺構としては、4条の溝状遺構が検出されており、古墳時代後期以降もしくは古代の遺構と推定される。大道遺跡群の他の調査地点では8世紀末～9世紀前半頃の遺構・遺物が多く認められるが、本地点で検出された溝状遺構から出土した遺物は非常に少ないため、具体的な時期の判定には至らなかった。

今回の調査で注目された古墳時代の遺構であるが、6基の井戸跡以外の遺構は検出されておらず、住居跡等は後世の削平により残存していないものとみられる。しかし、多くの木製品の発見や有機物資料が得られたことにより、古墳時代前期における大道遺跡群における集落の評価や環境復元につながる貴重な情報として今後の分析が期待される。また、出土した木製の保存処理についても慎重に進める予定である。(高畠豊)



第25図 調査地点位置図



第26図 調査区全景（南から）



第27図 SE008 出土木製臼・半月形木製品

VIII 宮苑井ノ口遺跡第4次調査

調査面積 375㎡

地域 A

調査期間 07.06.11～07.08.30

調査担当 中西武尚 若松善満

調査地は、大分市賀来西土地区画整理事業地内の西側中央に位置し、マンション建設に伴い調査を実施した。調査区は建物本体により遺構が消失する部分の内、事前の試掘調査により水田跡の検出された箇所を除いた、建設予定地西側部分に調査区を設定し、発掘調査を実施した。既往の調査の結果、周辺は弥生時代から古墳時代前期の集落の居住域と墓域が確認されており、当該調査地においても同様な遺構群の展開が予想された。

調査の結果、周辺調査で確認されているような横穴墓などの墓域と考えられる遺構は検出されず、設定した調査区のほぼ全面に弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴住居跡や住居跡と考えられる竪穴状遺構が17基確認された。調査区東よりでは、南北に縦断する溝状遺構が検出され、これより東側が一段低くなる地形である。この溝状遺構は、地籍図にみられる字境に一致しており、これよりさらに東側にもう1つ南北方向でくの字に曲がった字境が存在する。検出された遺構の状況から後者の字境まで遺構が展開していたものと推測される。

確認された竪穴状遺構は、出土遺物から弥生時代後期・古墳時代前期・中期・後期の4時期に大別される。調査区内での各時期の位置関係をみると、弥生時代後期に帰属する遺構は、調査区北側に分布し、古墳時代中期以降ではやや南側に分布する傾向がみられる。周辺調査成果を鑑みると、当該地は集落域の中でも居住空間であったと考えられ、推定微高地の中心部に弥生時代の遺構群が展開し、古墳時代においては、その居住域が拡大したものと推定される。

その他では、古墳時代後期の住居跡を切る掘立柱建物跡1棟と井戸跡と考えられる遺構1基などを確認した。また、調査区南東隅からはわずかに水田跡を検出しており、概ね調査区東側の字境を境にして水田跡が展開している。詳細な時期については、近現代の水田跡により大きく削平をうけており不明である。

今回の調査において、これまでに確認されていなかった古墳時代中期・後期の居住空間が確認できたことは、当該地域の遺構変遷を考える上で貴重な成果と言える。(中西武尚)



第28図 調査地点位置図



第29図 調査区全景空中写真(上が北)



第30図 調査区全景(東より)

IX 千代丸古墳・宮苑遺跡

調査面積 73㎡

地域 A

調査期間 08.01.10～08.02.01

調査担当 古川匠 山下勝紀

国指定史跡千代丸古墳は、重要な歴史的意義を持つ古墳であるにも関わらず帰属年代が不明である。また、横穴式石室西北隅付近は盛土の流出が著しく、長期的な保存が危惧される状況である。このような現状をふまえ、平成 19、20 年度の二カ年にわたり、大分市教育委員会が国庫補助事業によって、墳丘形態、規模及び帰属年代の確認を当面の目的とし、調査を実施する事となった。調査対象は現存する墳丘の隣接地であり、周知遺跡としては宮苑遺跡に帰属する事となる。

調査の初年度となる平成 19 年度の第 1 次調査では、墳丘西側に 1 カ所、墳丘南側に 2 カ所の調査区を設定した。墳丘西側の平坦面に設定した第 1 トレンチでは、溝状遺構を調査区東端付近で検出した (SX005)。SX005 は幅 1.8 m、深さ 0.45 m の、南北方向の溝と推定され、埋土には多量の礫が含まれている。墳丘との位置関係と遺構の方向より、千代丸古墳周壕と推測される。但し、遺物は一点も出土していない。SX005 は墳丘復原の材料として評価できるが、SX005 から現存墳丘に至る範囲には古墳盛土の残存が確認できなかった。SX005 の直上には、中世の堆積層が水平堆積し、調査区東端まで延びている。また、SX006 で検出される中世の廃棄土坑 SK003 は、周壕状遺構 SX005 よりも墳丘側に位置している。すなわち、少なくとも 15 世紀段階には千代丸古墳墳丘西裾部は、現代とほぼ同じ地点まで削平を被っていたようである。次年度はこの成果を踏まえ、引き続き墳丘周辺の確認調査を実施する予定である。

(古川匠)



第 31 図 調査地点位置図



第 32 図 墳丘西側溝状遺構 (北が上)



第 33 図 第 1 工区古墳周濠南壁土層 (北より)

X 賀来条里跡

調査面積 330.6㎡

地域 A

調査期間 07.12.10～07.12.14

調査担当 池邊 三嶋 羽田野(裕)

申請地は、大分市大字東院字九反田に所在し、賀来条里跡の西北側に位置する。当該地は、賀来川の河岸段丘上の標高約22mにあり、北側に向かって緩やかに傾斜する。賀来川を挟んだ北側には、千代丸古墳とその周囲に13世紀後半を中心とする館跡が発見された宮苑遺跡が存在する。中世段階このあたり一帯は賀来荘として賀来氏の本貫地であったところで、賀来中学校にあたる賀来中学校遺跡内において賀来氏関連の館と推定される遺構群が確認されている。

今回の調査は、個人住宅の立会いの予定であったが、建造物の基礎部が遺跡を掘削する深度に変更されたために、緊急の発掘調査を実施するに至った。

検出された遺構は掘立柱建物跡6棟、溝状遺構2条、埋裏遺構1基、柵列遺構、多数のピット群で、14世紀後半～15世紀代の遺構群と推定される。以下に各遺構群について概略を述べる。

溝状遺構は、S001・O10の2条が検出されており、堆積状況に水流痕跡が見られない。S001は、南東から北西方向に伸びる幅1.2mほどの溝状遺構である。埋土からは、14世紀末～15世紀代の土師器環(R001・O02)が見つかったほか縄文土器(R003～O07)が多く混入し、このあたりに縄文時代の包含層が存在していることが示唆される。S010は真南北に指向し、床面は南にやや傾斜する。この方位は、検出された掘立柱建物と同一であることから屋敷地の区画性の高い溝と考えられる。

掘立柱建物跡は、数棟検出されているが、S010と同じく同一方向で切り合いがないことから同時性の高い遺構である。SB001は、北隅で確認された建物で南側に張り出しもしくは庇を有すると考えられる。SB002も同じく北隅で確認された東西棟の建物である。SB003は、梁行が2間、桁行が3間の東西棟である。SB004は、東隅で確認された建物である。SB005は、梁行が1間、桁行が2間の東西棟であるが、東と北に柵列を伴う構造である。SB006は、梁行が1間、桁行が2間の東西棟である。

これ以外にS040は、調査区東隅においてS010の一部を切られており、全体の形状は復元できないものの、現状では竪穴遺構と考えられる。遺物には、14世紀末～15世紀代の土師器環(R010・O11)があり、建物群やS010の溝状遺構と時期差はあまりないものである。S045は楕円形を呈する土坑であるが、埋土に瓦質の鉢(R012)が出土している。また、S045の土坑は、埋設された埋裏が見つかったり、裏(R013・O14)は14世紀後半～15世紀前半代の備前産である。

今回の調査は、これまで周辺において本格的な調査が皆無であった地点であり、この地域において縄文土器の確認、中世段階の遺構・遺物の確認ができたことは意義が大きい。特に14世紀から15世紀にかけての溝状遺構建物群が、賀来荘の集落の形成状況を示す重要な手がかりとなったと言える。今後、周辺部を含めて遺跡の解明をおこない、なかでも中世における賀来荘の実態に注視していく必要がある。

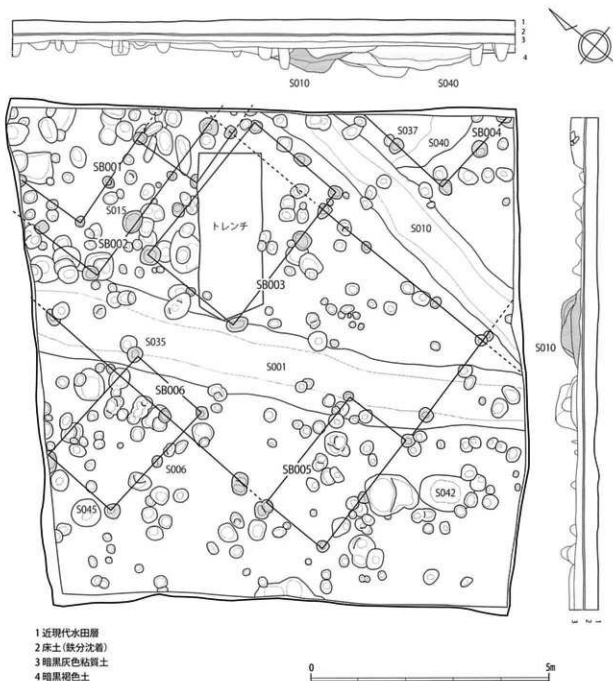
(池邊千太郎・三嶋桂司)



第34図 調査地点位置図



第35図 発掘状況(南より)



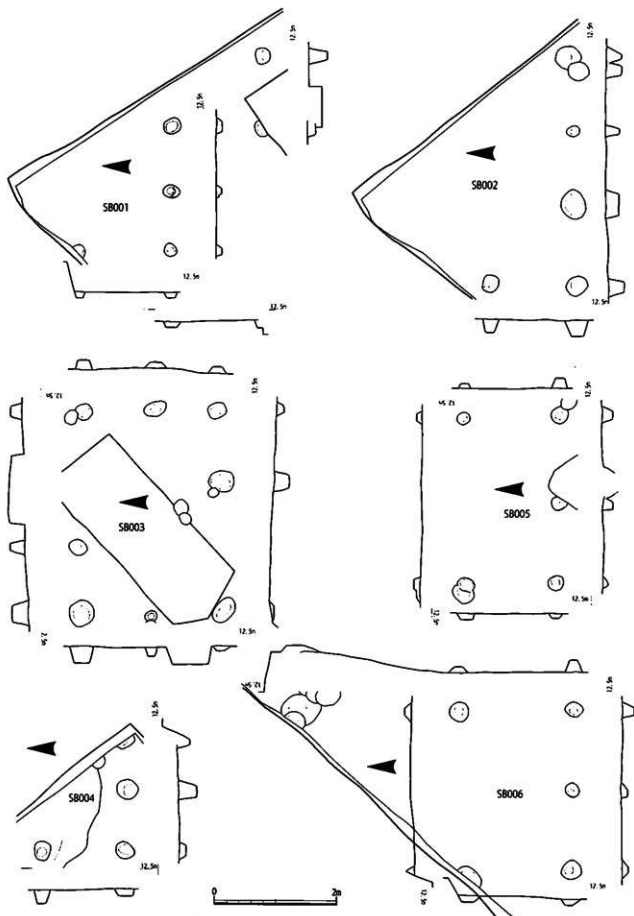
第36図 遺構配置図 (1/80)



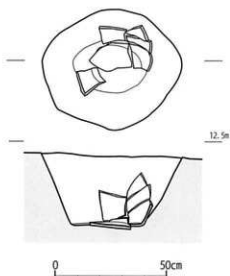
第37図 S001 完掘状況 (南東より)



第38図 S040 土層断面状況 (南西より)



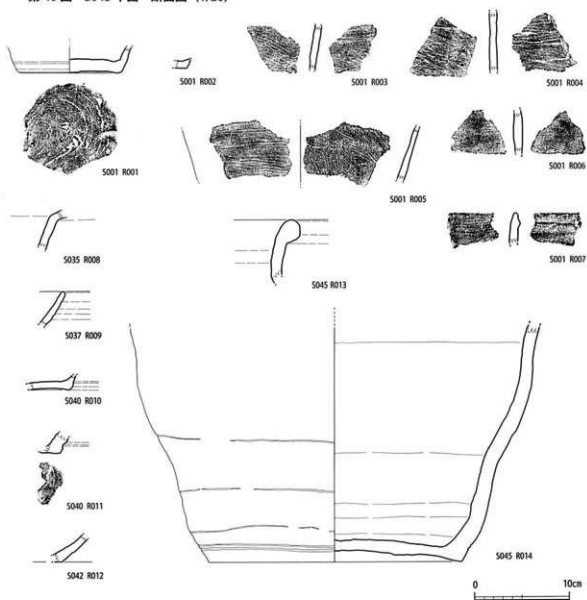
第 39 図 掘立柱建物跡平面・見通し図 (1/60)



第40図 S045 平面・断面図 (1/20)



第41図 S045 遺物出土状況



第42図 出土遺物実測図 (1/4)

XI 木上石切り場跡確認調査・測量調査

調査面積 1400㎡	調査期間 06.04.26~06.05.02 (復元) 07.05.29~07.06.25 (測量)
地域 B	調査担当 塩地潤一 佐藤道文 中西武樹 佐藤孝則

本確認調査は、宅地造成工事が計画された開発事業地内の古墳や横穴墓群などの記録作成のための発掘調査をはじめるにあたり、開発事業地内に「ウーヒトの足跡」と言い伝えられる石切り場の取り扱いを判断するために、この一帯に広がる凝灰岩の露頭と碎石層の分布、そして採石の時期決定を目的として、確認調査を実施した。

調査の結果、「ウーヒトの足跡」と虎御前古墳の周辺、そしてその間の細尾根の両側にかけて凝灰岩の露頭が広がり、露頭の裾部に8か所の採掘坑とそれに隣接して碎石層を確認した。採掘坑には、ノミの痕跡が明瞭に残り、方形に掘り出された石割（採石）の跡も認められる。碎石層は、採掘坑内から露頭の対面に広がり、採掘坑に隣接してマウンド状に厚く堆積していることから、石割で生じた碎石を採掘坑から掘り出した様子が復元できる。

遺物は碎石層から、割り石をはじめ、円柱状に加工された凝灰岩製品が出土しているものの、その帰属年代は断定し難く、石割の時期を決定することはできなかった。また、碎石層は厚く、3m以上堆積していることから、石切り場全域を対象とした発掘調査は断念した。

この石切り場から採掘された石は、西側に隣接する大きな谷から搬出されたものと判断される。（塩地潤一）



第43図 調査地点位置図



第44図 S-3採石状況1



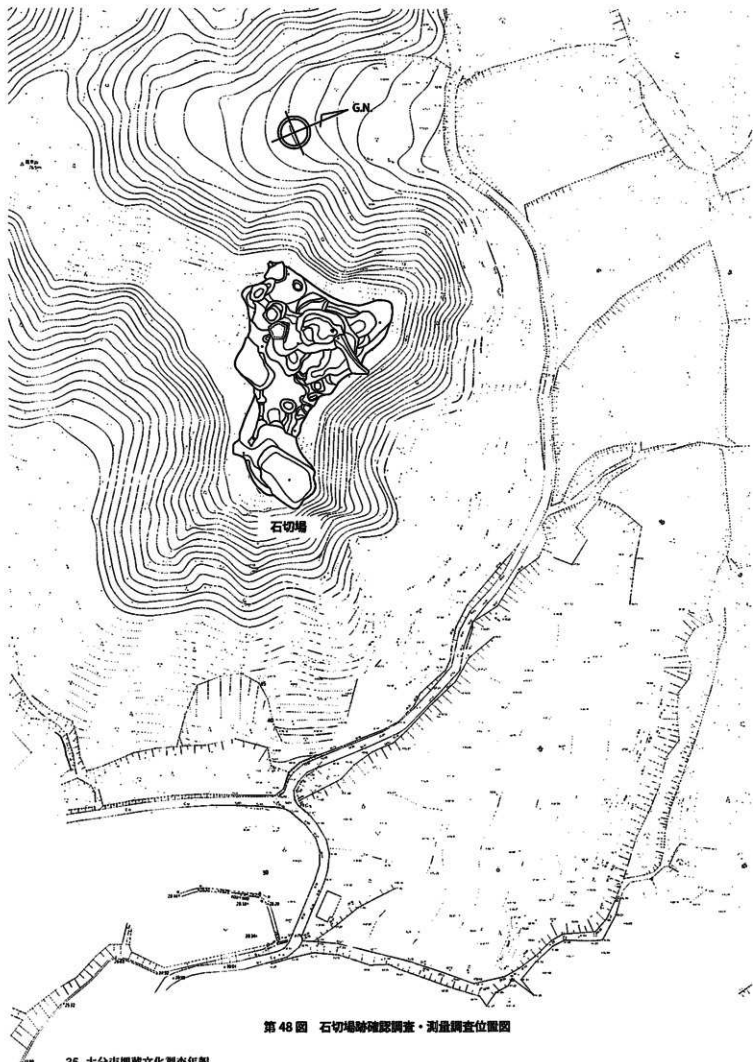
第45図 S-3採石状況2



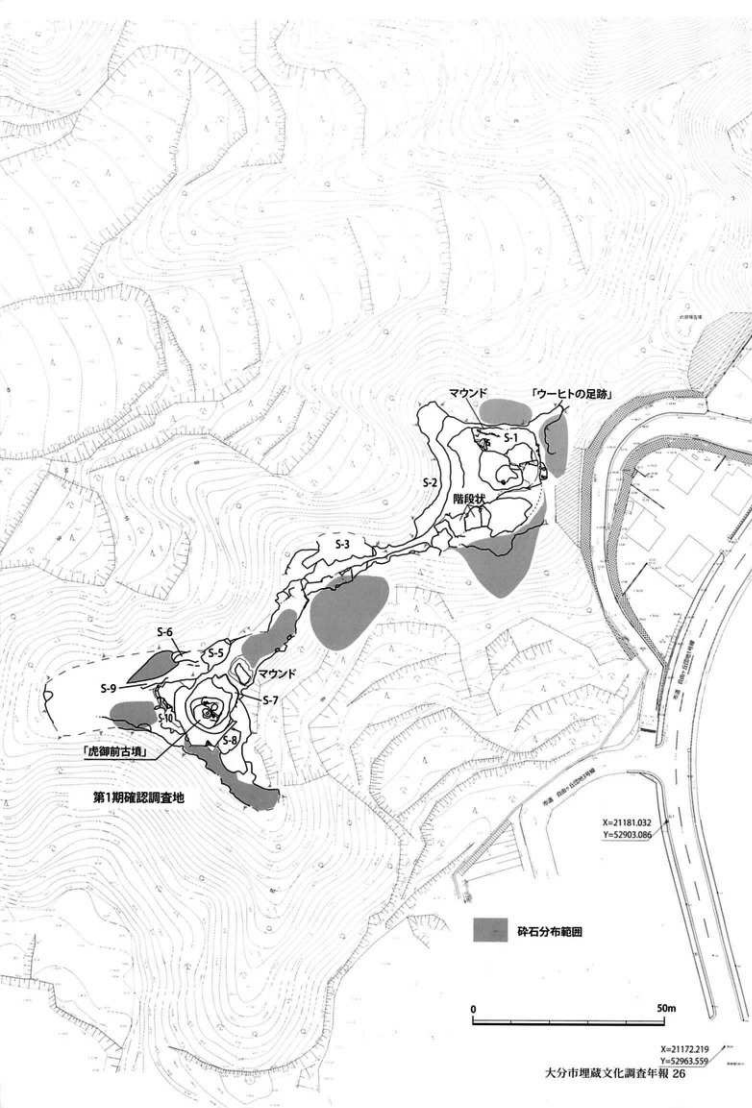
第46図 S-1 ウーヒトの足跡 採石状況



第47図 S-2採石状況



第48圖 石切場跡確認調査・測量調査位置圖



測量調査

昨年度に引き続き、大分市大字木ノ上の標高約 70 ～ 75 m を測る丘陵において、大規模宅地造成の計画が俎上にあがった。前回の踏査の結果、象徴的な巨大石柱を中心とした大規模な石切場の存在が明らかとなった。当丘陵の基盤は凝灰岩で形成されており、良質の凝灰岩が採取されたと考えられる。時期についての詳細は不明であるが、近世以降の可能性が高いと推定される。18 世紀以降では享保井路や嘉永井路等の水田灌漑施設の再開発が行われており、こうした事業に関連するものの可能性も想定できようか。

地域の歴史を知る上でも貴重な資料と考えられ、その地点の地形測量をし、記録保存を図ることとした。

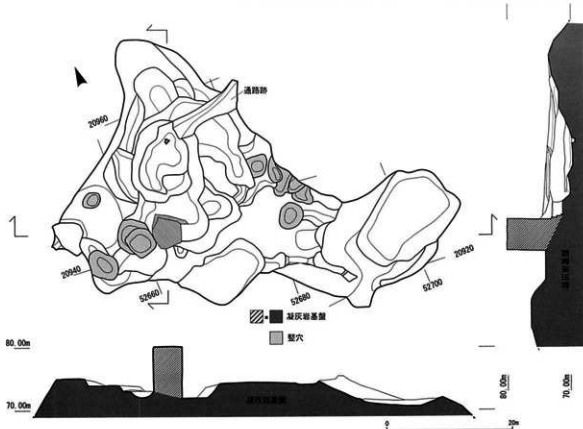
測量の結果、巨大石柱の頂部の標高が約 80 m を測り、現況の丘陵頂部付近の標高が約 70 ～ 75 m であることから、多量の凝灰岩が採取されたことが想像に難くない。巨大石柱の北東部分には、幅約 2 ～ 3 m の切り通し風の通路跡が確認され、その通路から石柱に向かって大きく採掘がなされている。一時期の採掘経路が想定される。また、巨大石柱の南東側には段状になった平坦面が形成されており、ここにも一時期の採掘経路、あるいは作業場の存在が想定される。この他、周辺に直径約 3 ～ 5 m 程度の竖穴が確認でき、部分的な採掘がなされたものと考えられる。(中西武尚)



第 49 図 石柱近景 (北東から)



第 50 図 石柱近景 (東から)



第 51 図 石切場跡測量図 (1/600)

XII 横尾遺跡群第126・127・128次調査

調査面積 1020㎡ 2610㎡ 570㎡ 調査期間 07.07.23～07.10.09
地域 E 調査担当 河野 永松 山本 中西 若松

調査地は、横尾土地区画整理事業地内の南西部分にあたり、道路工事部分を中心に上記の期間に3地点の調査を実施した。

調査の結果、弥生時代～近代にかけての遺構・遺物を検出した。以下、調査次ごとにその概要を記す。

第126次調査

水田造成以前の遺構と耕作痕からなる畠跡と思われる遺構を確認した。水田造成以前の遺構は、1区に多く、井戸跡や溝状遺構が見られる。出土する遺物は近世の陶磁器や瓦質土器が多く占めるが、中国産青花と考えられる破片が見られることから、中世（戦国期）遺構の存在が考えられる。2区では、南北方向、東西方向に延びる耕作痕を検出し、畠跡と考えられる。遺物出土は僅少で、居住域が近接していないことが窺える。また、東西方向の溝状遺構を境に耕作痕の方位が変化することから、何らかの字境等の性格と考えられる。出土遺物には、弥生土器片が認められ、当該期の遺構が存在していたものと思われるが、畠造成段階に削平を受けた可能性がある。



第52図 調査地点位置図

第127次調査

調査地は、従来の調査所見から古代の建物群が集中して確認された地点に位置し、関連する遺構群の展開が予想された。結果、第118次調査と第125次調査で確認されている掘立柱建物跡群の延長と考えられる建物跡を10棟検出した。ほとんどが東西建物跡で、建物方位から4時期の変遷が考えられる。時期は古代から中世の範疇に捉えられる。この他、9世紀代に比定される土坑や建物方位と軸を同じにする柱穴群列・溝状遺構なども検出しており、横尾遺跡において当該時期の中心的な地区の1つであったと考えられる。

第128次調査

近世と中世の遺構を確認した。近世の遺構では、2区で2条の溝状遺構が検出され、南から弧を描き東へ延びる北西角部分にあたる。数回の掘り返しが認められ、遺構の床面付近に鉄分の沈着、酸化が見られることから、滞水の痕跡と考えられ、区画溝の性格と想起される。1区では、東西に延びる溝状遺構を検出し、中世に比定できる瓦質土器片が出土している。溝状遺構は床面が平坦になって滞水等の痕跡もみられない。溝埋土からは古代の土器や須恵器片が多く出土し、当該期の遺構の存在が窺われる。(中西武尚・永松正大)



第53図 第127次調査区（上が北）



第54図 第127次調査建物群（西より）

XIII 横尾遺跡群第129・130・131次調査

調査面積 3250㎡ 210㎡ 500㎡
地域 E

調査期間 07.11.05～08.02.25
調査担当 中西 佐藤(孝) 若松 五十川

調査地は、横尾土地区画整理事業地内の南西部にあたり、台地の東側に開析した2つの谷の先端付近に位置する。調査区は周辺工事等との兼ね合いで3地点に調査区を設定し、調査を実施した。調査の結果、弥生時代～近代にかけての遺構・遺物を検出した。以下、調査次ごとにその概要を記す。

第129次調査

第129次調査区は、調査の都合から129-1～3の3地点に分けて調査を実施している。調査区は16世紀の方形館跡と考えられる区画溝を確認した第79・81・83・112次調査地の南側に位置する。129-1・3次調査では調査区東側において、戦国期と考えられる南北方向の溝状遺構を二条確認している。溝状遺構は、新旧関係をもって検出され、古い段階のものは、東側にL字状に曲がり調査区外に展開する。新しい段階のものについても、L字状に曲がる付近で終息しており、この区画の北西域を示しているものと考えられる。このことから、北側の各調査次で確認された方形館跡とは別の方形館跡が展開していた可能性が考えられる。この他、溝状遺構に近接して、1×2間の南北棟建物(掘立柱建物跡)と同じく1×2間の東西棟建物(掘立柱建物跡)が検出され、東西棟のすぐ北側には東西方向の柱穴列が検出されており、区画溝周辺に造られた入口的な施設の可能性が考えられる。また、南北棟建物については、溝状遺構を覆うように検出しており、さらにその内部の溝状遺構からはいくつかの土坑状のプランを検出しており、トイレ施設の可能性が指摘できる。

第130次調査

調査地は、第129-1次調査区の西側、乙津川に向けて開口する開析谷の内1つの先端部付近に位置する。調査の結果、不定形の土坑群を確認した。土坑群は溝状に何度も掘られており、時間をおかず埋められているような状態であった。灰白色粘土層まで掘り込まれていることなどから、これまでの周辺調査で確認されているような粘土採掘に伴う遺構の可能性が考えられる。出土遺物は埋め土内から完形に近いものが出土し、出土した遺物から弥生時代後期後葉～末頃に比定される。

第131次調査

調査地は、古代～中世の建物跡群が確認されている地区の北東部付近に位置する。

調査の結果、溝状遺構・土坑・不定形遺構等を検出した。調査区南端で検出した不定形遺構からは、古代に比定される多量の土師器が出土しており、以前の調査から確認されている建物群を主体とした地区がこの付近まで展開する可能性が指摘できる。(中西武高)



第55図 調査地点位置図



第56図 第130次調査区(南より)

XV 横尾遺跡群第132次調査

調査面積840㎡

地域 E

調査期間 07. 12. 17～08. 02. 18

調査担当 長直信 五十川慎也

調査地は、大野川の分流・乙津川の左岸に沿って南北方向に広がる鶴崎台地の標高30～31mの中段段丘面上に立地し、乙津川に向けて開口する開析谷の南側緩斜面に位置する。古代に比定される道路状遺構や16世紀末の方形館跡にともなう溝を検出した横尾遺跡第65次、79次、81次、83次調査地に隣接する。現在、谷頭部分は埋設しているが、遺跡の立地上調査区は北東側へ向ってゆるやかに傾斜を持つ。今回の調査の主要遺構のほぼ全てが調査区内で完結しないものであり、今後周辺の正式報告を行った上で、改めて総括すべきであることはいうまでもないが、調査で判明した事項と今後の課題についてまとめる。近世段階は、横尾遺跡全体で確認されている低位段丘面を区画する直線的な溝の一部を検出。溝は谷の方向へ向かって延びていく。18世紀末頃に掘り返しが確認でき、掘り返した溝の南肩は拳大の礫により護岸されていた。中世段階は、調査地が16世紀末の方形館内部に当たるが、建物等の居館内部施設は確認できなかった。なお、中世後期に埋没した溝132SD010には流水状況は確認できず、区画的な機能をもって居館形成期に存在した可能性がある。また、これまでの調査の所見を総合すれば居館内部の西側半部は建物遺構が展開しないいわば「空閑地」として位置づけられる可能性が高まる。古代の段階は、周辺調査で確認されているビット列の延長部(132SX020)を確認した。ビットは群をなしており、複数にわたる補修や改変が行われている可能性があるため規格性の把握

が困難であるが、調査地点南側で西へ延びるラインと南へ延びるラインの2方向の存在が推定された。また、遺構は確認できなかったが、後世の遺構中より小田編年Ⅲb期頃に該当する須恵器が出土している。横尾遺跡のこれまでの調査・報告事例では6世紀から8世紀は遺構が欠落する時期といわれており、希少な出土例といえる。(長直信)



第57図 調査地点位置図



第58図 ビット列検出状況(西より)

XV 野間8号墳

調査面積 6㎡
地域 G

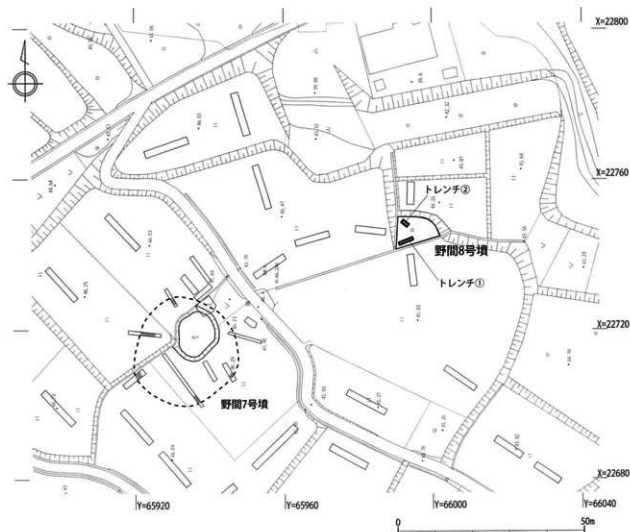
調査期間 07.04.25～07.5.25
調査担当 永松正大 山本哲也

調査地は、丹生川左岸に広がる丹生台地、丹川丘陵上に点在する野間古墳群の1つであり、昭和23年に行なわれた小池原・野間 緊急発掘調査の野間古墳8号墳にあたる。8号墳は7号墳の東方50mに位置する。現状で8号墳は大きく削平されていることが想定される。

平成16年度から実施している県経営体育成基盤整備事業に伴い、調査地に里道敷設の計画が大部分県振興局から提示され、大分市耕地林業課と大分市教育委員会文化財課の三者による協議を行い、遺跡確認調査を実施することとした。調査地は、現況北東側が大きく段造成により削平しており、また南～西側についても削平を受けている。調査地に試掘トレンチを2箇所（トレンチ1・2）設定した。調査にあたり、地権者との協議により、地下茎や木根に影響を与えないよう、また調査による廃土についても現状復旧できるよう調査を行うため、広



第59図 調査地点位置図



第60図 試掘トレンチ配置図 (1/1000)



第 61 図 野間 8 号墳近景 (西から)



第 62 図 試掘トレンチ① (西から)



第 63 図 試掘トレンチ② (北西から)

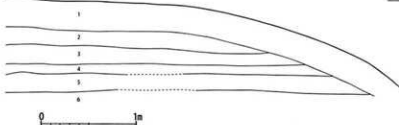


第 64 図 試掘トレンチ② 南土層

トレンチ②南西壁



トレンチ①南壁



第 65 図 試掘トレンチ土層図 (1/40)

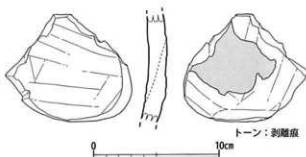
範囲の調査は実施せず、小規模な調査を行うこととした。同地点の調査では、平成 18 年度に西側に位置する野間古墳群 7 号墳とともに試掘調査を実施しており、本調査地の西側と南側に計 3 本の試掘トレンチを設定したが、周溝等を確認しておらず、今回の調査は墳丘部の確認を目的とした。試掘箇所は、小規模の伐採を行い、トレンチ 1 は頂部付近に $0.8 \times 5\text{m}$ 、トレンチ 2 は斜面地に $1 \times 2\text{m}$ の試掘坑を設け、掘削については人力による表土からの掘削を実施した。トレンチ 2 は地山まで掘削したが、トレンチ 1 は木根が著しく生育しており、地山までの掘削には至らなかった。

調査の結果、トレンチ 2 では顕著な盛土構造が見られ、また同様な堆積がトレンチ 1 の頂部付近の試掘坑でも確認できた。トレンチ 2 の土層観察から、約 7 層に分層でき、第 1 層である表層は淡茶褐色土が覆う。第 2～7 層は墳丘を構築する盛土と考えられ、ほぼ水平に堆積している。土質はややしまりがあり、第 6 層を除きほぼ色調も近似する。また、墓石等は検出できておらず、また、流出した資料も見られなかった。トレンチ 2 からは、第 6 層から埴輪片 1 点を確認しており、円筒埴輪の体部と思われる。内面、外面ともにナデ調整を施す。胎土内に結晶片岩と石英を混入する。以上の調査結果から、調査地は古墳と判断した。また、頂部には $1.2 \times 2 + \alpha\text{m}$ の竪掘坑があり、現況石板等は見られないが、主体部であった可能性がある。

今回の試掘調査の結果を受け、県中部振興局と市耕地林業課と協議を行い、当調査地については工法変更により全面保存を行うこととした。(永松正大)



第 66 図 試掘トレンチ②南西壁遺物出土状況



第 67 図 試掘トレンチ出土円筒埴輪片 (1/3)

XVI 丹生遺跡群（第12地点）

調査面積 382㎡
地域 G

調査期間 07.07.01～08.01.31
調査担当 永松正大 山本哲也

調査地は、大分市大字野間字宮友にあたり、北東方向に延びる丘陵の斜面部分に位置する。第12地点南西約150m先の丘陵上には野間古墳群が位置している。

現況は水田で、水田を含め概ね6層に分層できる。第2層（茶褐色粘質土）は近代以降の造成土である。第2層下の第3層（包含層、暗灰茶褐色土）、第4層（包含層、茶灰褐色粘質土）・第5層（包含層、灰黒褐色粘質土）・第6層（包含層、暗茶褐色粘質土）は古代、中世遺物を多く含む包含層である。これらの包含層は調査区中央の緩斜部分から低地を範囲に確認している。遺構面は、調査区北側では第2層下、緩斜部分から低地は第5層下で確認している。遺構は古代を中心とし、ピット・土坑のほか、緩斜部分と低地の境付近を中心に4基の集石遺構を検出している。掘立柱建物は1棟検出している。梁行1間、桁行3間+αの規模で、建物東側は調査区外に延びる。中世所産の土師質土器片が出土している。

包含層は中世を主体とする第2・4・5層、古代を主体とする第3層（SX003）に分かれる。土層観察から、これらの包含層は北方向から堆積し形成されたと考えられる。第3層では多種多様な古代土器が多く出土した。そのうち、全形を窺うことができる移動式竈は当時の生活を考えるうえで重要な資料である。土師器環・蓋、須恵器の特徴から、第3層はおおむね9世紀前半～中頃を主体とするものと考えられる。集石遺構は緩斜部分と低地の境を中心に営まれている。古代の所産と考えられる。集石の立地状況から、小規模な護岸施設もしくはなんらかの祭祀が行われた跡であろうか。

本調査地はの古代遺構は集落域の一部分にあたるものと考えられる。第12地点は周辺の遺跡と時期的に符合しており、古代集落の様相を考えるうえで注目できる。（山本哲也）



第68図 調査地点位置図



第69図 第12地点全景空中写真



第70図 SX003 遺物出土状況

XVII 丹生川・坂ノ市条里跡（第11地点）

調査面積 290㎡

地域 G

調査期間 07.07.01～08.01.31

調査担当 永松正大 山本哲也

調査地は、大分市大字延命寺字光蓮寺に所在する。遺跡は丹生川上流域の沖積地にあり、丹生川左岸の低位段丘上にあたる。

発掘調査の結果、調査区を縦断する近現代の掘乱溝や掘乱坑がみられたが、中世と考えられるピット、掘立柱建物2棟、土坑を検出している。調査区中央よりやや南は遺構の希薄部分がみられるが、ほぼ全面に遺構が展開している。

掘立柱建物は2棟確認でき、東西方向に長軸をもつ。いずれの建物も遺物の出土はみられなかったが、その埋土から中世に位置付けられるものと考えられる。SB001は、梁行1間、桁行2間の小規模な建物で、SB002は建物の東側は調査区外に及ぶが、梁行は1間、桁行は3間の規模を有するものと考えられる。

出土遺物は少量であるが、おおむね中世を主体とするものである。出土遺物から、時期については、和泉型瓦器小皿、白磁碗、土師質土器土鍋の12世紀後半～末頃を上限とし、下限は瓦質土器から14～15世紀代と考えられる

本調査地では延命寺、光蓮寺の寺地名が残ることから、寺院関連遺構の発見が期待された。しかし今回の調査では、遺構・遺物とも少なく、寺院的な性格として考えることは困難である。遺跡の性格については、広義の中世集落跡として考えられ、対岸に位置する第9地点では、12～13世紀代の集落跡が確認されているが、第11地点周辺もこの時期の集落の広がりが見られる。ただ第9・11地点を比較すると、第11地点は遺構密度、遺物量とも低調であるといえる。この違いを、階層差によるものかは明らかにしえないが、集落域が点々と散在した可能性が考えられる。

今回の調査より、丹生川上流域の中世集落の様相を考えるうえで貴重な手掛かりを得ることができた。
(山本哲也)



第71図 調査地点位置図



第72図 第11地点全景



第73図 遺構発掘状況

XVIII 丹生川・坂ノ市条里跡（第13地点）

調査面積 1007㎡
地域 G

調査期間 07.07.01～08.01.31
調査担当 永松正太 山本哲也

調査地は、大分市大字丹川字原にあたり、丹生川左岸、北東方向に伸びる標高約30mの台地の先端部に位置している。台地東側と丹生川の間には沖積地が広がり、台地と沖積地の比高差は約10mである。

第13地点の遺構は、柱穴のほか、掘立柱建物7棟（SB001～007）、柵跡7列（SA001～007）、溝状遺構1条（SD010）、土坑6基を検出している。これらの遺構は中世を主体とするものである。

掘立柱建物はおおむね梁行2間、桁行4間規模を主体とし、SB007を除く他の建物は東西に長軸をもつ。柵跡はすべて南北に長軸をもつ。SD010付近に位置するSA001～003・007と、調査区南東に位置するSA004～006のまとまりがみられる。SD010、建物との関連が目される。溝跡（SD010）は調査区北側に位置し、調査区をほぼ直線的に横断する溝である。溝は、長さ47+αm、幅2～8m、深さ0.1～0.5m、断面逆台形の規模である。溝の北側では幅8mの窪み部分がみられ、これを境として東西に分断している。溝は土層観察から複数段階の埋没過程が看取されるが、遺物の出土状況から大きな時期幅はないものと考えられる。「堀ノ内」の字名を北側に持つことや東西に分断する溝の性格から、入り口を有する屋敷などの区画性をもった溝と考えられる。遺物は古代土器の流れ込みがみられるが、14世紀前半～中頃には埋まったものと考えられる。

土坑（SK005）はSD010の北側にあたり、不整形を呈する土坑である。土師質土器がまとまって出土し、器形・法量からSD010とほぼ同時期とみられる。遺物の出土状況から廃棄土坑であろう。

以上から本調査地の遺跡は14世紀代を中心に展開したとみられる。北側の字堀ノ内が示すように、第13地点は屋敷地に関連する遺構群の可能性が高いものである。遺跡東側の沖積地には14～15世紀代の第6地点が位置している。中世後半期の丹生川上流域における沖積地と台地の土地利用の検討が今後の課題であるといえる。（山本哲也）



第74図 調査地点位置図



第75図 第13地点全景空中写真



第76図 溝（SD010）および柵

XIX 城原・里遺跡第11次調査

調査面積 250㎡
地域 G

調査期間 07. 11. 26～07. 12. 07
調査担当 佐藤道文 奥村義貴

城原・里遺跡第11次は、昨年度実施した10次調査区の北約100m離れた地点にあり、7世紀末～8世紀後半の掘立柱建物群や道路状遺構などが確認された2・3次調査区（旧中安遺跡）の北西約100mの位置にあたる。今回の調査は、倉の確認及び古代の遺構の範囲を把握する目的で実施している。

11次調査地は、私有地であったため、発掘調査の承諾をとり、得られた後草刈作業を行った。その後、調査区を設定し、掘削委託業務に要する測量と事前記録を作成した。

調査は、平成19年11月26日から機械掘削を開始し、平成19年12月7日に道具までの撤収を含め終了した。

今回の調査では、竪穴住居跡2基、竪穴遺構1基、柱穴列、溝状遺構、ピット群が発見されている。SH001は、4.8m×4.0mの規模を有し、平面方形を呈す住居跡である。残存状況は悪く、検出段階でほぼ床面が表出していた。炉跡部分は焼土が堆積し、また床面が非常に硬く焼き締まった状態であった。柱穴は4本で構成されるが、小規模で浅いことから再検討を要する。出土遺物には土師器甕の他、小田編年I B期に該当すると思われる須恵器高坏の蓋がある。よって、SH001の時期もそこに置かれる。SH005は調査区の北東部で確認される。検出面から床面までの深さは0.2mあり、SH001に比べ良好である。床面には屋内土坑があり、底面直上において土師器甕、坏が出土した。その時期であるが、SH005とSH001は東側ラインを揃えるように配置されており、状況から同時期の住居跡と考えられる。柱穴列は4間分見つかったが遺物が無いため時期は不明である。

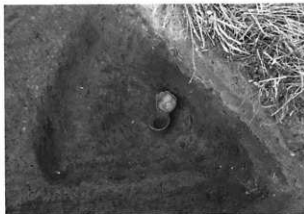
11次調査において、7世紀～8世紀代の遺構・遺物は確認されなかった。しかし、SH001・005などの古墳時代の住居跡が、2・3次～本調査区まで展開していることは、遺跡が存在する台地頂部は官衙的遺構が形成される以前も、重要な拠点地域であったと考えられる。（佐藤道文）



第77図 調査地点位置図



第78図 調査区全景



第79図 SH005 遺物出土状況

付篇1 大分市池の平出土の土師器壺

掲載した土器は、平成 19 年 11 月 8 日に大分市池の平 1459 において畑耕作中に発見されたものである。共存遺物はなく単独での出土である。

出土地は、南北に延びる鶴崎台地の先端付近の中央部分で、北方向に開析する小谷の西側斜面地にあたる。標高は約 40 m であり、周知の埋蔵文化財包蔵地とはなっていない。周辺には小池原貝塚の所在が知られているが、現在では近隣の宅地化が進み詳細な場所はわからない。西側の台地部は大規模団地の造成によりすでに旧地形は大きく改変されている。東側台地の高位の平坦地には、弥生時代の集落遺跡として著名な米竹遺跡や古代官衙関連遺跡と推定される地蔵原遺跡が存在する。

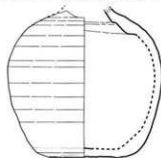
発見者からの聞き取りによると、出土状況に関しては、暗茶黒色の耕作土をおよそ 40cm 掘り下げた地点で壺を確認し、頸はすでに欠損しており、内部には土が詰まっていたという。遺物が持ち込まれた際にも壺内部には土が充満しており、にわかには土器と判断し難い状況であった。

出土遺物は土師質の壺形土器であり体部は完存するものの、肩部上位が欠損する。径 7.1 cm を測る底部は平底を呈する。外器面の調整は回転ナデであり、底面には回転ヘラ切り難しの後にナデによる調整が認められる。また、底部の周囲には手持によるヘラケズリが行われている。色調は外面が暗茶褐色～淡黒色、内面が暗茶色を呈し、胎土中には角閃石を内包する。

この壺の帰属年代については、胎土や焼成、調整などの状況から 9 世紀前後に比定される在地の土器に類似するが、これまでの大分市内の発掘調査等では類似の資料は確認されていない。(坪根伸也)



第 80 図 発見地点位置図



第 82 図 出土遺物実測図 (1/4)



第 81 図 土器出土地 (中央の畑地)



第 83 図 出土遺物 (土師器壺)



第 84 図 出土遺物底部

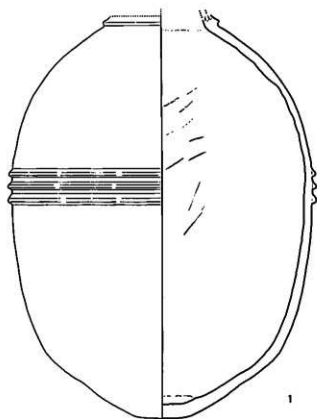
付篇2 大分市西寒多神社所蔵の土器群

本稿で報告する弥生土器、古式土器は、西寒多神社に所蔵されている資料である。採集資料であるが、発見された年代、出土位置等については口碑に残されており、不明である。本資料が収蔵されている西寒多神社宝物庫は一度火災による消失の憂き目にあっており、土器片にも火災に伴う二次的なススの付着が多く認められたが、にもかかわらず資料の残存状況は良好である。帰属年代はおおよそ弥生時代中期後葉から古墳時代前期に比定される。周辺には弥生時代から古墳時代の集落が複数所在しているため、これらの遺跡のいずれから出土したものであろう。今後、接合可能資料の出土等によって、帰属が判明する可能性がある。

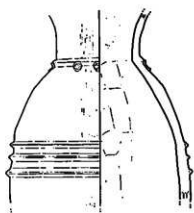


第85図 西寒多神社位置図 (1/25000)

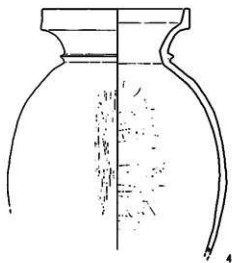
1 は、倒卵形の胴部を有する壺形土器である。外面は暗褐色、内面は赤褐色または黄褐色を呈する。頸部から上が欠損するが、複合口縁壺と考えられる。残存器高 42.5cm、胴部最大径 32.4cm、底径 4.0cm を計る。内外面ともに、丁寧なナデが施される。頸部に突帯を一条、胴部中央部に断面三角形の突帯が三条巡らせる。小さな平底で、比較的安定する。頸部突帯直上で割れ面が水平に存在し、偶然の欠損とは想定しがたい。2 はやや長頸の壺形土器である。口縁部が欠損する。色調は、内外面ともに黄褐色を呈す。残存器高 45.4cm、胴部最大径 29.8cm、底部径 4.0cm である。頸部に突帯が一条巡らせられ、工具による刻目が施されている。外面底部付近にはタタキ成形の痕跡が残るが、外面全面はタテハケ、内面全面にはヨコハケが観察される。3 は 1 と類似する器形の壺形土器である。外面は淡黄灰色、内面は淡黄褐色を呈す。胴部上半部と頸部下半部のみが残存する。残存器高 19.3cm、胴部最大径 19.0cm を計る。外面調整はタテハケを主とし、内面調整は、頸部にヨコハケ、胴部にユビオサエが施される。頸部突帯には浮文が二つずつ、5箇所施される。4 は受け口状の複合口縁壺である。色調は、内外面とも暗茶褐色～淡黒色を呈す。胴部下半部が欠損し、口径 15.5cm、残存器高 25.0cm、胴部最大径 23.0cm を計る。胴部内面にはヘラズリ後、ヨコ方向のヘラ磨きが施され、胴部外面にはナデの後、縦方向のヘラ磨きが施される。口頸部には、内外面ともヨコナデが施される。5 は、ほぼ完形の直口壺である。外面は茶褐色～赤褐色、内面は黄褐色～赤褐色を呈す。器高 31.0cm、口径 14.2cm、胴部最大径 24.6cm を計る。胴部外面は下半部が調整不明であるが、上半部がタタキ成形される。胴部内面にはヨコハケが施される。また、器形は丸底である。6 は、小さな把手を有する器種不明土器である。大型器種ではないようで、たとえば鉢形土器の可能性が挙げられる。胎土は比較的精良である。色調は、外面がやや暗い灰褐色、内面が灰褐色を呈する。把手部で最大径を計るが、径 30.0cm、残存器高 7.0cm である。内外面とも丁寧にナデが施され、把手部裏面にはヨコハケが施される。図面では把手を上にした状態で図示したが、上下が反転する可能性がある。7 は、下城式土器甕の底部である。色調は内外面とも、暗い淡黄灰褐色を呈する。法量は、底径 6.0cm、残存器高 6.6cm を計る。外面にタテハケ、内面にナデが施される。8 は、壺形土器の頸部周辺の破片である。外面はやや暗い淡灰褐色、内面は淡暗褐色を呈する。頸部に断面三角形の突帯が一条巡らせる。胴部外面にはタテハケが施され、内面は全体にナデられる。頸部径 12.8cm、残存器高 7.2cm を計る。9 は長頸壺形土器の胴部から頸部までの資料である。外面は黒褐色、内面は暗茶褐色を呈す。胴部中央に焼成前穿孔が施される。外面全体に単位の細かいタテハケが施され、ナデ消されている。また、胴部内面には横方向の工具ナデが施される。底部はほとんど欠損しているが、安定した平底となるようである。10 は 9 と同じ器形の長頸壺形土器である。外面は黒褐色～茶褐色、内面は黒褐色～暗褐色を呈す。胴部最大径 21.4cm、頸部径 8.4～8.6cm、残存器高 22.4cm を計る。外面全体に単位の細かいタテハケ



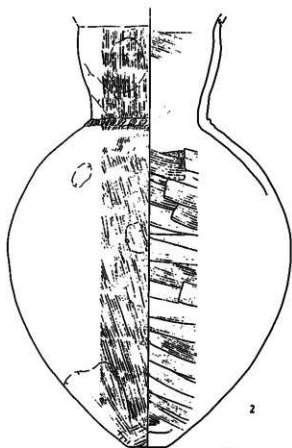
1



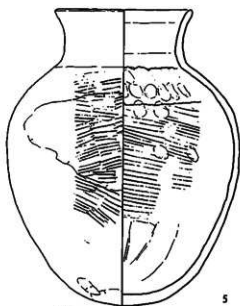
3



4



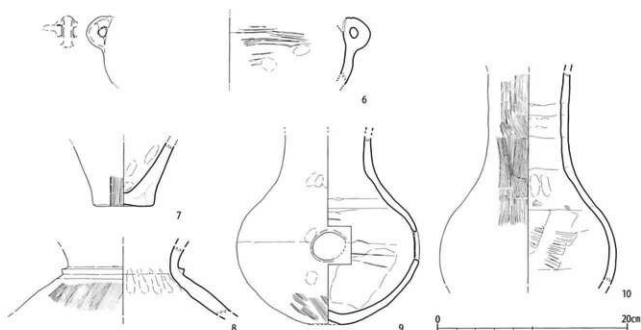
2



5



第 86 圖 土器実測図 1 (1/4)



第 87 図 土器実測図 2 (1/4)

が施されている。胴部内面には横方向の工具ナデが施され、頸部内面には指オサエ痕が観察される。

上記の資料の帰属年代については、1~3 が弥生時代後期後葉、4 が古墳時代前期前葉、5 が古墳時代前期、6 が中期末から後期初頭頃、7 が弥生時代中期後葉から中期末、8 が弥生時代後期後葉、9、10 が中期末から後期初頭頃に位置づけられようか。ただし、本資料は大分平野の中期から後期の弥生土器の様相を念頭に置くと、イレギュラーな器形が多く、特に 2、6、9、10 については類例がほとんどない。このため、帰属年代については、今後の類例の増加によって前後する可能性がある。

当資料については、西寒田神社関係者諸氏のご好意によって大分市教育委員会文化財課が借り受け、今回、図示、報告が可能となった。末筆ではありますが、ご協力いただいた関係者の皆様には、心より感謝を申し上げます。

(古川匠)

付篇3 大分市碓山出土の弥生土器

1. 出土地点と出土状況 (第88図)

当該地は、碓山の西部に位置し、「碓山山頂遺跡」として周知されている。平成19年2月21日に、山側斜面の工事現場に土器の細片が露出している状況が地元市民により大分市教育委員会に通報がなされた。このため大分市教育委員会では、急速埋蔵文化財立会調査を行うこととなった。現地で協議後、遺物出土状況を撮影し、取り上げを行なった。土器は山の谷部に堆積する礫を多く含む層の中に点在していた(第89図・第91図)。それぞれ出土した地点には明確な掘り込みプランは認められないことから、地崩れ等の作用により礫とともに周辺から流れ込んだものと考えられる。(佐藤道文)



第88図 位置図

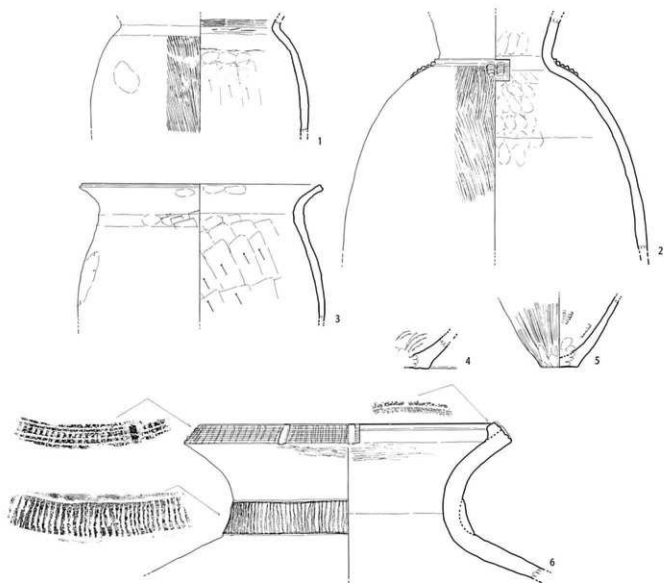
2. 出土遺物について (第92図)

立会調査にて発見された遺物はすべて弥生時代後期の土器である。遺物の出土状況から、一括性は期待できないが、全体の組成としては2の安国寺式の壺のみ、やや時期的に下るものの、おおそ後期前葉の時期の所産である。

1は、甕。復元胴部最大径22.8cmを測る。色調は内外面淡黄白色。胎土はやや粗く、白色・赤色砂粒を0.5mmほど、金雲母・角閃石を少量含む。体部のみ1/7残存。内面頸部下段には接合痕跡が残り、以下には単位不明の粗い削りが施される。外面にはタテハケが施され、体部には楕円形の黒斑がみられる。後期前葉～中葉か。2は、安国寺式の壺。色調は外面橙白色～淡黄白色、内面暗黄白色。やや密な胎土で、0.5mm～3.0mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。外面は単位の粗いタテハケで平滑に仕上げられる。頸部下半には粘土紐痕をナゲ消したような指オサエ痕が明瞭に残る。体部上半部のみ完存する。頸部には突帯が巡り、肩部に2つ一組の縦長浮文が四方に貼付される。底部・口縁部を欠くため時期の絞りこみが困難であるが後期後半か。3は、甕。復元口径24.4cmを測る。色調は外面黄白色、内面淡白色。胎土はやや粗く0.5mm～3.0mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。外面調整は摩滅のためかほとんど確認できないが、頸部にハケの入り痕が観察できるので、タテハケ調整か。外面には円形の黒斑が確認できる。口縁端部を肥厚させ、端部には沈線状の窪みをつくる。内面は下から上方向への粗い削りを施す。1/5が残る。4は、壺×甕の底部片。色調は外面淡黄白色。内面淡灰黒色。胎土は密で、0.5mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。底部のみ1/3程度が残る。5は、壺の底部片か。色調は外面暗灰橙色。内面淡黒茶色。胎土はやや粗く0.5mm～3.0mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角

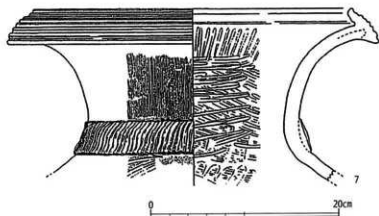


第89図 立会地点位置図



【参考資料】
愛媛県松山市
松山大学構内遺跡
第3次SR1上層出土
[弥生時代後期前葉]

小学館2002
「考古学大観」第2巻より



第90図 土器実測図 (1/4)

閃石を少量含む。底部はわずかに上げ底となる。内面には斜め方向のハケが、外面には縦方向のハケ調整が施される。6は、瀬戸内系的大型壺の上半部片(第92図)。復元口径31.0cmで、色調は外面暗褐色～淡黄白色。内面暗茶赤色。胎土は粗く0.5mm～5.0mm程度の白色・赤色砂粒を多く、雲母をごく少量含む。口縁部外面には以下に述べる「擬凹線文」を施し、端部には沈線を入れる。また、頸部の幅広突帯は工具により刻目が施されるが、刻みを刺突した際に付いた工具の痕が突帯下部に部分的に確認できる。体部外面は風化のため調整不明瞭であるが、横方向のミガキがわずかに確認できる。内面は、単位が把握しにくい、平滑な器面を作り出す横方向のミガキが施されていると考えられ、口縁部下部には比較的明瞭に確認できる。口縁部から肩部が1/3強残る。当資料のようないわゆる擬凹線文土器の出土は大分平野でも比較的珍しく、比較資料として松山平野で出土した7を参考としてあげておく。口縁端部の接合方法に違いがあるが、全体のプロポーションや頸部の幅広刻目突帯など類似する属性をもつ。幅広刻目突帯は後期前葉の豊後在地土器には見ることが出来ず、西部瀬戸内地域的な要素といえる。口縁端部外面には棒状工具により4条の沈線を巡らし(第93図)、「凹線文土器」を模していることから瀬戸内系土器の影響下にある。ただし、口縁端部には豊後の後期土器でみられる縦長の浮文(伊予地方では円形が多い)をもつことから一部には在地的要素が残る土器ともいえる。大分平野では、後期前葉を中心に「擬凹線文土器」が点的に出土することが知られており、西部瀬戸内地域との交流を考える上で重要な資料といえる。

(長直信)



第91図 瀬戸内壺出土状況(詳細)



第92図 瀬戸内系壺(第90図6)



第93図 瀬戸内系壺口縁部

第5章

受贈図書目録

北海道	
旭川市教育委員会	
吉田 義 資料集-20 帯広叢書 第54巻	2005
吉田 義 資料集-22 帯広叢書 第56巻	2006
吉田 義 資料集-23 帯広叢書 第57巻	2007
財団法人 北海道埋蔵文化財センター	
北海道埋蔵文化財センターだより 第18号	2007
北海道埋蔵文化財センターだより 第19号	2007
調査年報 20	2008
秋田県	
秋田市教育委員会	
国指定史跡 地蔵田遺跡環境整備事業報告書 市民と生徒による手づくり弥生こ村	2007
宮城県	
仙台市教育委員会	
若林城跡 仙台市文化財調査報告書 第306集	2007
仙台北城跡 仙台市文化財調査報告書 第309集	2007
仙台市博物館	
史事せんたい vol.17	2007
山形県	
山形市教育委員会	
梅野木前1遺跡発掘調査報告書 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第28集	2007
山形市埋蔵文化財調査年報 平成17年度	2007
福島県	
いわき市教育委員会	
玉山古墳 平成18年度福岡総調査概報	2007
根古屋遺跡・上野遺跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第118冊	2007
白土城跡 いわき市埋蔵文化財調査報告第125冊	2008
財団法人いわき市教育文化事業団	
弘聖寺貝塚 いわき市埋蔵文化財調査報告 第122冊	2007
福島大学行政政策学類考古学研究室	
市野田稲庭社古墳1・上土古墳群2 福島大学考古学研究室報告 第2集	2007
郡山市教育委員会	
市道高倉大寺寺線道路改善事業関連「田中遺跡」 第2次調査報告	2007
宮ノ脇遺跡 第6次発掘調査報告	2007
郡山市埋蔵文化財分布調査報告14	2007
栃木県	
足利市教育委員会	
平成17年度文化財保護年報 足利市埋蔵文化財調査報告書 第55集	2007
群馬県	
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	
研究紀要25	2007
埼玉県	
寄居町道路調査会	
寄居町遺跡調査会報告 第28集 中小前田2遺跡(第3次・第6次・第8次)	2006
寄居町遺跡調査会報告 第29集 赤坂牛無貝利遺跡	2006
寄居町遺跡調査会報告 第30集 金銀遺跡	2006
寄居町遺跡調査会報告 第31集 不動寺遺跡	2007
千葉県	
国立歴史民俗博物館	
国立歴史民俗博物館研究報告 第134集	2007
国立歴史民俗博物館研究報告 第135集	2007
国立歴史民俗博物館研究報告 第136集	2007
財団法人山武都市文化財センター	
年報 No.17 平成12年度	2001
年報 No.18 平成13年度	2002
年報 No.22 平成17年度	2007
小野山田遺跡群IV 一掃荷谷遺跡一 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第75集	2002
長倉宮ノ前遺跡 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第92集	2007
長倉宮治原台遺跡 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第93集	2007
四ツ塚遺跡・中島遺跡 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第94集	2007
法山山遺跡 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第95集	2007
森城跡 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第96集	2007
折戸遺跡 石京塚遺跡 平蔵遺跡 境塚谷津遺跡 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第97集	2007
新戸遺跡(203地点) 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第98集	2007
山田木香遺跡(1630地点)・山田新田Ⅱ遺跡(1165-1地点) 財団法人山武都市文化財センター発掘調査報告書 第99集	2007
国立歴史民俗博物館研究報告 第137集	2007
国立歴史民俗博物館研究報告 第138集 [共同研究]高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究	2007
国立歴史民俗博物館年報3(2006年度)	2007
茨城県	
筑波大学人文社会科学部研究科 史学・考古学コース	
筑波大学 史学・考古学 研究 第18号	2007
石岡市教育委員会	
シンポジウム資料 国府・国府・みち・常陸国府の現状と今後 2000年	2000
常陸国府跡-石岡小国遺跡本館建設事業に伴う調査- 2001年	2001
市内遺跡調査報告書 第2集	2006
石岡市片野城跡 NTTドコモ移動無線基地局建設に伴う発掘調査報告書	2006
祐徳山下遺跡 発掘調査報告書	2007
神奈川県	
逗子市教育委員会	
国指定史跡名越切通管理計画策定報告書	2001
国指定史跡名越切通跡跡地対策工事報告書	2007
長柄原山 平成18年度国指定史跡長柄原山古墳群の発掘調査	2007
神奈川県逗子市 埋蔵文化財緊急調査報告書5	2007
東京都	
文化庁	
月刊文化財 平成19年1月	2006
月刊文化財 平成19年4月	2007
月刊文化財 平成19年5月	2007
月刊文化財 平成19年6月	2007
月刊文化財 平成19年7月	2007
月刊文化財 平成19年8月	2007
月刊文化財 平成19年9月	2007

月刊文化財 平成19年10月	2007
月刊文化財 平成19年12月	2007
月刊文化財 平成20年1月	2007
月刊文化財 平成20年2月	2008
月刊文化財 平成20年3月	2008
文化財月報 平成19年5月号	2007
文化財月報 平成19年6月号	2007
文化財月報 平成19年7月号	2007
文化財月報 平成19年8月号	2007
文化財月報 平成19年10月号	2007
文化財月報 平成19年9月号	2007
文化財月報 平成19年11月号	2007
文化財月報 平成19年12月号	2007
文化財月報 平成20年1月号	2008
文化財月報 平成20年2月号	2008
文化財月報 平成20年3月号	2008
学校法人上智大学・加藤建設株式会社	
東京都千代田区 尾形藩御町邸跡地 土質大第6号館(仮称)建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	2006
新井成弥	
愛知学院大学文学部歴史学科 上里ニ号室跡第1次発掘調査概要報告書 愛知学院大学考古学発掘調査報告 4	2004
府中市教育委員会・府中市道跡調査会	
武蔵国府の調査33 昭和50～60年度府中市内発掘調査概報	2006
武蔵国府の調査34 平成13年度府中市内発掘調査概報	2006
昭和女子大学国際文化研究所	
国際文化研究紀要 Vol.11 2006	2007
㈱ジャパロ通信センター	
文化財発掘出土情報 2007.1	2006
文化財発掘出土情報 2007.2	2007
文化財発掘出土情報 2007.3	2007
文化財発掘出土情報 2007.4	2007
文化財発掘出土情報 2007.5	2007
文化財発掘出土情報 2007.6	2007
文化財発掘出土情報 2007.7	2007
文化財発掘出土情報 2007.8	2007
文化財発掘出土情報 2007.10	2007
文化財発掘出土情報 2007.11	2007
文化財発掘出土情報 2007.12	2007
株式会社 武蔵文化財研究所	
武蔵国府関連遺跡調査報告書 (仮称)府中市府中町2丁目計画地区のマシソン建設に伴う埋蔵文化財調査報告	2007
㈱岡成社	
重要文化財 西都原古墳群出土 埴輪・土持家・甕 東京国立博物館所蔵 重要考古学調査報告書	2005
東京都埋蔵文化財センター	
研究論文集 Vol. Ⅲ	2007
たまたまのこころ	2007
株式会社 吉川弘文館	
信長のむくみ 中世食・衣の百科	2007
財団法人 日本城郭協会	
日本100名城公式ガイドブック	2007
重文堂	
日本の美術 第198号 縄文土器 後編	2007
世田谷区立郷土資料館	
1945～54 写真で見る戦後復興期の世田谷 平成19年度特別展 旧産相澤世田谷館蔵書展Ⅱ	2007 2008
国分寺市道跡調査会	
花沢西道跡発掘調査概報Ⅰ 野村不動産株式会社共同住宅建設に伴う調査	2007
社団法人 日本ユネスコ協会連盟	
「ユネスコ世界遺産年報2006」(no. 13)の贈呈について	2007
富山県	
財本市教育委員会	
糸田Ⅰ遺跡発掘調査概要(2) 個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財調査	2006
本江田Ⅰ遺跡発掘調査報告(3) 個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財調査	2007
財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	
トヤと泉屋がより 平成18年度 発掘調査速報	2007
福源市教育委員会	
久波遺跡発掘調査概報 平成17年度 一般国道359号新東バイパス建設工事に先立つ埋蔵文化財調査報告書	2007
石川県	
小松市教育委員会	
小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ 新見町遺跡Ⅱ (B地区及びC地区一部区域の調査)	2007 2007
千手野遺跡	1997
小松市埋蔵文化財調査だより No.17	2007
野々市町教育委員会	
富樫稲跡 三納ニシヤ遺跡(第1・2・4・6・7次調査) 三納アヲシヤ遺跡(第3次調査) 藤平田ナカシヤ遺跡(第1～3次調査)	2007 2007
福井県	
福井県あわら市教育委員会	
市橋跡遺跡 あわら市埋蔵文化財調査報告 第1集	2007
南越前町教育委員会事務局	
宝野 南山城跡遺跡 南越前町埋蔵文化財調査報告 第2集	2007
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	
『年報20』平成16年度	2006
福井県埋蔵文化財調査報告 第83集 石山城跡	2005
福井県埋蔵文化財調査報告 第84集 南伊夜山銅器出土地	2005
福井県埋蔵文化財調査報告 第91集 衣掛山古墳群	2006
福井県埋蔵文化財調査報告 第92集 芳春寺山中世草群	2006
福井県埋蔵文化財調査報告 第94集 東古市縄土道跡	2007
福井県埋蔵文化財調査報告 第95集 鎌倉館跡	2007
福井県埋蔵文化財調査報告 第96集 大坂向山道跡・山腰道跡	2007
福井県埋蔵文化財調査報告 第97集 栗住渡谷口道跡	2007
福井県埋蔵文化財調査報告 第98集 岳ノ谷道跡	2007

	福井県埋蔵文化財調査報告 第99集 大日山5号墳	2007
	第228回 福井県埋蔵文化財調査報告会資料	2007
長野県	株式会社 郷土出版社	
	大分・山手の歴史	2007
	奥郡・大野・竹田の歴史	2007
山梨県	新西甲府住宅・甲府市教育委員会・(財)山梨文化財研究所	
	朝霞遺跡(第34次)	2006
	甲府市教育委員会	
	甲府市内道跡Ⅳ	2007
岐阜県	岐阜市教育委員会	
	平成17・18年度岐阜市 市内道跡発掘調査報告書	2006
	大垣市教育委員会	
	米野遺跡 大垣市埋蔵文化財調査報告書 第17集	2007
	大垣市埋蔵文化財調査概要 平成17年度 大垣市文化財調査報告書 第44集	2007
関市教育委員会		
	弥勢寺東遺跡 関市文化財調査報告書 第21号	1999
	関市埋蔵文化財発掘調査報告書 関市文化財調査報告書 第22号	2006
	(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所	
	船来山古墳群 (財)岐阜市教育文化振興事業団報告書 第16集	2007
美濃市教育委員会		
	野田遺跡・丹波遺跡	2008
	渡来川遺跡	2008
静岡県	浜井市教育委員会	
	浜井市内道跡発掘調査報告書Ⅰ	2006
	浜井市内道跡発掘調査報告書Ⅱ	2007
	平成17年度 堀之上遺跡 浜井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 15・16・17	2006
	平成18年度 堀之上遺跡 浜井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 18・19・20	2008
愛知県	愛知県教育委員会	
	愛知県文化財年報(平成17年度)	2007
	愛知県埋蔵文化財年報(平成18年度)	
	1119年度 弥生時代のくづり(体験事業報告書)	2008
	愛知学院大学文学部歴史学科	
	愛知学院大学考古学発掘調査報告書 愛知学院大学考古学発掘調査報告書 3	2007
	名古屋大学文学部研究科考古学研究室	
	名古屋大学文学部研究科考古学 考古学技術 第22集	2007
愛田市教育委員会		
	秋葉遺跡・酒谷ジュンナ遺跡 愛田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集	2007
	明達1〜4号墳 愛田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集	2007
	平成17年度市内道跡発掘調査事業概要報告書	2007
	一橋遺跡の発見書一本多跡跡コレクション	2007
愛田市教育委員会・岡崎市教育委員会		
	地下に埋もれた縄文の森 矢作川河床埋没林調査報告書	2007
	地下に埋もれた縄文の森(パンフレット) 矢作川河床埋没林の調査	2007
愛田市郷土資料館		
	愛田市郷土資料館だより No.60	2007
愛田市教育委員会		
	白鳥前遺跡 愛田市水二期事業西部幹線併設水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
	愛田市内道跡発掘調査概要Ⅹ 史跡三河分司跡整備基本構想策定に伴う発掘調査概要Ⅰ	2008
南山大学人類学博物館		
	南山大学人類学博物館年報 2006年度	2007
名古屋市長崎考古資料館		
	名古屋市長崎考古資料館 年報24 2006(平成18)年度事業報告	2007
	名古屋市長崎考古資料館研究紀要 第9号	2007
名古屋市長崎考古資料館		
	朝日遺跡発掘調査報告書 第3次平田西部雨水幹線幹線造成工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
	名古屋城跡市下門跡発掘調査報告書 西區堀ノ口町地内400坪配水管布設工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2004
	平成18年度 明海城跡発掘調査報告書 藤和不動産株式会社・マンション建築工事にかかる埋蔵文化財発掘調査	2006
	中丸町遺跡発掘調査報告書 スーパーマーケット建設にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
	平手町遺跡発掘調査報告書	2006
	埋蔵文化財調査報告書 55 名古屋市長崎考古資料館 70	2007
	埋蔵文化財調査報告書 56 名古屋市長崎考古資料館 71	2007
	高蔵遺跡第54次発掘調査報告書	2007
	瑞穂遺跡第9次発掘調査報告書	2007
	H-115号室発掘調査報告書	2007
	国史跡 白鳥塚古墳 第1次〜第3次総論確認調査 概要報告書	2007
	大久手遺跡山古墳群 平成18年度(歴史の痕(復原))計画地内埋蔵文化財総論確認調査報告書	2007
	平手町遺跡 西部医療センター中央病院(仮称)整備事業用地における第3次発掘調査報告書	2007
	聖三蔵遺跡発掘調査報告書 マンション建設工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
三重県	津市埋蔵文化財センター	
	まいふん津	2006
	今地跡跡第1次発掘調査報告書 津市埋蔵文化財調査報告書 4	2007
	中山下経塚発掘調査報告書 津市埋蔵文化財調査報告書 5	2007
	多気北高丘遺跡発掘調査報告書 津市埋蔵文化財調査報告書 6	2007
	山の稲遺跡発掘調査報告書 津市埋蔵文化財調査報告書 7	2007
	まいふん津 第2号 津市埋蔵文化財センター一橋	2007
三重県埋蔵文化財センター		
	みえ 第41号 三重県埋蔵文化財センター一橋	2007
	上樺ノ木古墳群・谷山古墳・正知南古墳群・正知南遺跡 三重県埋蔵文化財調査報告書 100-1	1992
	小津遺跡発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 115-22	2007
	難波北遺跡発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 115-23	2007
	三石代遺跡発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 279	2007
	山田遺跡(第4次)発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 280	2007
	皆田遺跡(第5〜第8次)発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 281	2007
	荒木・西明寺地内遺跡群発掘調査報告書一附編 小泉氏館跡発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 282	2007
	上飯瀬遺跡発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 283	2007
	小牧北遺跡発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 284	2007
	中新田遺跡(第2次)発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 285	2007
	尾花田内遺跡(第3次)発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 286	2007
	岡田内遺跡・本田氏館跡発掘調査報告書 三重県埋蔵文化財調査報告書 287	2007

一般国道23号中野道路理蔵文化財免照調査概報18	2007
一般国道42号松坂多気バイパス理蔵文化財免照調査概報11	2007
伊賀の考古資料1 研究概要16-3	2007
伊賀の考古資料2 研究概要16-4	2007
四日市市教育委員会	
久留山遺跡2 四日市市理蔵文化財免照調査報告書 39	2007
三重県理蔵文化財センター	
研究紀要 第16-1号 中世特集	2007
三重の古墳免照大図鑑 第269号 三重県理蔵文化財財	2007
松坂市教育委員会	
2005年度松坂市理蔵文化財免照調査報告	2006
志摩市教育委員会	
谷古墳群 志摩市文化財調査報告書第27集	2007
志摩市市史資料史料目録 志摩市文化財調査報告書第29集	2008
滋賀県	
大津市教育委員会	
大津市理蔵文化財調査年報 平成16(2004)年度	2006
大津市理蔵文化財調査年報 平成17(2005)年度	2007
大津市理蔵文化財調査年報 平成18年度	2007
東近江市教育委員会	
百済寺遺跡免照調査報告書 東近江市文化財調査報告書 第2集	2007
東近江市文化財調査報告書 第3集 一市内遺跡の調査一 東近江市文化財調査報告書 第3集	2007
東近江市遺跡分布図説 東近江市文化財調査報告書 第4集	2007
東近江市理蔵文化財調査報告書第5集	2007
東近江市理蔵文化財調査報告書第6集	2007
東近江市理蔵文化財調査報告書第7集	2007
愛知川町史編集委員会	
近江愛知川の歴史 第一巻	2005
近江愛知川の歴史 第四巻	2007
滋賀県安土城跡調査研究所	
特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書XIV 大手口岡辺西側	2007
特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書XV 大手口岡辺東西石垣南側	2007
安土城・織田信長関連文書調査報告17 石寺区有文書目録・光善寺文書目録	2007
滋賀県安土城跡調査研究所年報 2006年度	2007
研究紀要 第13号	2008
京都府	
(財)京都府理蔵文化財調査研究センター	
京都府理蔵文化財情報 第102号	2007
京都府理蔵文化財情報 第103号	2007
京都府理蔵文化財情報	2007
城陽市教育委員会	
城陽市理蔵文化財調査報告書 城陽市理蔵文化財調査報告書 第54集	2007
同志社大学歴史資料館	
同志社大学境内遺跡免照調査報告書(2003・2005年度) 同志社大学歴史資料館調査研究報告 第7集	2007
同志社大学歴史資料館 館報 第10号	2007
財団法人 長岡京市理蔵文化財センター	
長岡京市理蔵文化財調査報告書 第47集	2007
長岡京市理蔵文化財センター年報 平成18年度	2008
長岡京跡石室第913次免照調査報告 長岡京市理蔵文化財調査報告書 第48集	2008
(財)今日屋 茶道資料館	
特別展覧会 西百年忌 千利休展	
平成二年秋季特別展 遺跡出土の朝鮮王朝陶磁 名陶と考古学	1990
大阪府	
貝塚市教育委員会	
貝塚市遺跡群免照調査概要 29 貝塚市理蔵文化財免照調査報告書 第71集	2007
豊中市教育委員会	
文化財ニュース 豊中 No.34	
豊中市理蔵文化財免照調査概要 平成18年度(2006年度) 豊中市文化財調査報告書 第59集	2006
高槻市立文化財調査センター	
史跡・安満遺跡保存管理計画書	2007
岡崎山古墳石椁 画像・環境調査報告書(&デジタル版) 高槻市文化財調査報告書 第25冊	2007
嶋上遺跡群31 高槻市文化財調査概要 34	2007
史跡・今城塚古墳 平成17年度 第9次規模確認調査	2007
古代の匠に挑戦! 石椁展元体験への手引き 一 高槻市石椁一	2007
八尾市教育委員会	
八尾市内遺跡平成18年度免照調査報告書 八尾市文化財調査報告 55	2007
八尾市立おんじやま古墳資料館 講演会記録集1 八尾市文化財紀要 12	2007
大阪府立大学日本史研究室	
大阪市帝塚山古墳の測量調査 「市大日本史」 第4号抜刷	2001
東阪本町合同調査報告 和泉市坂本寺跡出土の軒瓦 「市大日本史」 第5号抜刷	2002
阪井基白山古墳の研究 大阪府立大学考古学研究室報告 第2集	2003
柏原市教育委員会	
玉手山1号墳の免照調査 玉手山2・3号墳の測量調査 「玉手山古墳群の研究II-墳丘編-」抜刷	2002
玉手山7号墳の免照調査 柏原市文化財紀要 2002-II	2003
大阪大学大学院文学研究科考古学研究室	
大谷3号 一 藤原朝経北城域の調査一	2006
須恵器生産における古代から中世への変遷過程の研究 2003〜2006年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果報告書	2007
大阪大学理蔵文化財調査委員会	
待兼山遺跡VI 大阪大学豊中地区・待兼山岡田修景整備工事に伴う理蔵文化財免照調査報告書	2008
熊取町教育委員会	
熊取町市史資料免照調査概要報告書・XⅩI 熊取町理蔵文化財調査報告書 第48集	2007
遠里法人 大阪市文化財協会	
遠里小野遺跡免照調査報告I 杉本町団地建替に伴う免照調査報告書	2006
長原遺跡免照調査報告XⅤ	2006
長原遺跡免照調査報告Ⅴ 大和川改修事業に伴う免照調査報告書	2007
長原遺跡東部地区免照調査報告Ⅹ 2004年度大阪市長古東部地区土地地区西側整理事業施行に伴う免照調査報告書	2007
難波大道免照調査報告 (仮称)阿倍野学園建設工事に伴う免照調査報告書	2007
大阪城跡Ⅴ	2007
長原遺跡東部地区免照調査報告Ⅸ 2005年度大阪市長古東部地区土地地区西側整理事業施行に伴う免照調査報告書	2008
堺市教育委員会	
平成17年度市内遺跡立会調査概要報告 堺市理蔵文化財調査概要報告 第112冊	2007

	大久保道跡発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第113冊	2007
	太井道跡発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第114冊	2007
	真福寺道跡発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第115冊	2007
	堺環道部道跡(SKT945)発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第116冊	2007
	大阪府教育委員会文化財保護課	
	国重要文化財指定記念 修繕 文化財あれこれブックレット№2	2007
	大阪府教育委員会文化財調査年報11	2007
兵庫県	赤松市教育委員会	
	赤松こぼり 第一集 赤松市文化財調査報告書 65	2006
	姫路市教育委員会	
	特別史跡姫路城跡石川修理工事報告書(8) 喜喜門跡土橋石垣・同東方石垣	2007
	特別史跡姫路城跡一学校法人淳心学院整備事業に伴う発掘調査報告書一	2007
	城下町の考古学一城下の下の世界遺産一	2007
	大手前大学史学研究所	
	馬立道跡発掘調査報告書 大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター研究報告 第4号	2007
	高生土器造成土編年 一様書編一 大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター研究報告 第5号	2007
	近江町教育委員会	
	宝満古墳群 近江町文化財調査報告書 第28集	2005
	三木市教育委員会	
	シタノ宮事務所跡・高木太塚城跡 三木市文化研究資料 第19集	2007
	芦屋市教育委員会	
	会下山から野馬台河へ 一高地性集落の謎と激動の弥生社会一 会下山道跡発掘50周年事業	2006
	会下山から野馬台河へ 一高地性集落の謎と激動の弥生社会一(記録集) 会下山道跡発掘50周年事業記録集 歴史フォーラム	2007
	平成12年度国庫補助事業 芦屋市内道跡発掘調査概要報告書 芦屋市文化財調査報告 第65集	2007
	打出小堀道跡(第41地点)発掘調査報告書 芦屋市文化財調査報告 第66集	2007
	日若道跡発掘調査報告書 第83地点 芦屋市文化財調査報告 第68集	2007
	加東市教育委員会	
	文化財年報 ～2005年度～	2007
	尼崎市教育委員会	
	尼崎市内道跡 発掘調査等 尼崎市文化財調査報告 第36集	2006
	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成8年度(2)・9年度・10年度(1) 尼崎城跡第43・46次調査概要	2007
	道跡分布地図及び手引き 尼崎市埋蔵文化財	2007
	神戸市教育委員会	
	生田道跡第4次発掘調査概要 中山手地区内開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書	2006
	西郷古酒蔵跡/大石東道跡 発掘調査報告書 一第4次調査一	2007
	平成16年度 神戸市埋蔵文化財年報	2007
	神戸市埋蔵文化財分布図	2007
	ガイドブック 史跡 西木女塚古墳	2007
	NPO法人 妙見山麓遺跡調査会	
	神出IV(CD-40) 神出古墳群に開通する道跡群の調査	1988
	高木太塚道跡(CD-40) 土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
	神崎市教育委員会	
	天王太木太塚道跡18区 神崎市埋蔵文化財調査報告書 第4集	2008
奈良県	奈良大学考古学研究所	
	奈良大学考古学研究所研究報告 IX	2007
	田原市教育委員会	
	田原市文化財調査年報15 2005年度	2006
	田原本の埴輪 田原本の道跡5	2007
	ミュージアムコレクション Vol.1 唐古・磯古考古ミュージアム	2007
	平成19年度奈良県企画展「大友文相のふくみ」 多田氏の道跡と文化財	2007
	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 飛鳥資料館	
	春日古墳群調査四神玄武	2007
	「とき」と戦ふ 一発掘調査と写真一 平成19年度夏期企画展	2007
	重要文化財指定記念 奇燈狂歌 山田寺 秋季特別企画展	2007
	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター	
	動物考古学の手引き	2006
	埋蔵文化財ニュース 126号	2007
	埋蔵文化財ニュース 127号	2007
	埋蔵文化財ニュース 128号	2007
	埋蔵文化財ニュース 129号	2007
	奈良文化財研究所	
	飛鳥の考古学2007	2007
	財団法人 由良大和古代文化研究協会	
	研究紀要 第11集	2007
	研究紀要 第12集	2007
	財団法人堺市平野文化財協会	
	平成18年度発掘調査報告 平成19年度夏季企画展	2007
	桜井市埋蔵文化財 2000年度発掘調査報告書 3	2001
	桜井公園道跡群 桜井市内埋蔵文化財2002年度発掘調査報告書 4	2007
	天理大学文学部歴史文化科学考古学・民俗学専攻	
	古事 天理大学考古学・民俗学研究紀要 第11冊	2007
	斑鳩町教育委員会	
	斑鳩町内道跡発掘調査概要 平成4年度 斑鳩町文化財調査報告 第1集	2007
	斑鳩町内道跡発掘調査概要 平成13年度 斑鳩町文化財調査報告 第2集	2007
	王寺町教育委員会	
	王寺王寺道跡2次・舟戸・西園道跡第4次 一2004年度発掘調査報告書一 王寺町文化財調査報告書 第7集	2007
	静香苑環境施設組合	
	静香苑建設事業に伴う香園・聖井道跡発掘調査報告書	2007
	(財)元興寺文化財研究所	
	川上村白屋地区文化財民俗調査報告書	2007
	元興寺文化財研究所創立40周年記念論文集	2007
	ヤマト・ヤマトの民間伝説 一具現化された民衆の心一 元興寺総合収蔵庫 2006年度秋特別展示図録	2006
	寺院を中心とした中世都市形成に関する基礎研究 平成15～17年度 科学研究費補助金 若手研究B	2006
	元興寺文化財研究 No.89	2006
	東大寺の版本 (財)大和文庫文化財保存会補助事業による	2007
	東アジアにおける自然の模倣(造り物)に関する研究	2006
	平城京左京三楽西坊十二坪 平成18年度発掘調査報告書	2007
	元興寺文化財研究所研究報告2006	2007

桜井市教育委員会	
桜井市平成17年度国庫補助による発掘調査報告書 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第27集	2006
瀬向遺跡発掘調査報告書 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第28集	2007
桜井市 国史跡 珠城古墳 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第29集	2007
平成19年度秋季特別展 ヤマト王権はいかにして始まったか ～王権成立の地 瀬向～	
桜井市立埋蔵文化財センター展示図録 第32冊	2007
奈良大学文学部文化財学科	
文化財学報 第35巻	2007
奈良県立民俗博物館学芸課	
奈良県立民俗博物館研究紀要 第20号	2004
奈良県立民俗博物館研究紀要 第21号	2005
奈良県立民俗博物館研究紀要 第22号	2006
奈良県立橿原考古学研究所	
青陵 第121号	2007
青陵 第122号	2007
青陵 第123号	2007
小原竜造跡 奈良県文化財調査報告書 第118集	2007
ドンドコ内古墳群 奈良県文化財調査報告書 第119集	2007
曲川遺跡Ⅱ 奈良県文化財調査報告書 第120集	2007
横田アヅマ遺跡 奈良県文化財調査報告書 第121集	2007
極楽寺ヒキギ遺跡 奈良県文化財調査報告書 第122集	2007
平城京左京一坊五・十二・十三坪 奈良県文化財調査報告書 第126集	2008
マバカ古墳周辺の調査 奈良県立橿原考古学研究所調査報告書 第99冊	2007
西条ノミナト遺跡 奈良県立橿原考古学研究所調査報告書 第100冊	2007
平城京左京西条田・西条五坊 奈良県立橿原考古学研究所調査報告書 第101冊	2007
奈良県道跡調査概報 2006年 第一分冊	2007
奈良県道跡調査概報 2006年 第二分冊	2007
橿原考古学研究所年報 33(2006)	2007
考古学論叢 第30冊	2007
小宮谷遺跡群 葛田野町埋蔵文化財調査報告 第1集	2005
伴堂古田遺跡 三宅町文化財調査報告書 第1集	2006
和歌山県 有田川町教育委員会	
平成18年度 有田川町埋蔵文化財調査年報 和歌山県有田川町文化財調査報告書 第2集	2007
和歌山県教育委員会	
和歌山県市内遺跡発掘調査概報 平成17年度	2007
岩出市教育委員会	
岩出市内遺跡発掘調査概報 平成17年度 根来寺遺跡の調査	2006
栗田遺跡発掘調査概報 市道無口1号線新設改良工事に伴う発掘調査	2007
財団法人和歌山都市整備公社	
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報 平成17年度	2005
乙姫重隆先生古希記念論文集刊行会事務局	
九州上代文化論集 乙姫重隆先生古希記念論文集刊行会	1996
鳥根県 鳥根県津和野町教育委員会	
津和野町内遺跡発掘調査報告書2 津和野町埋蔵文化財報告書 第2集	2007
御茶屋上遺跡 津和野町埋蔵文化財報告書 第3集	2007
津和野町遺跡地区	2007
陶崎賀本陣跡 津和野町埋蔵文化財報告書 第5集	2007
津和野町内遺跡発掘調査報告書3	2008
鳥根県津和野市教育委員会	
津和野市道跡計測分市調査 一周布地区Ⅰー 平成15年度市内遺跡発掘調査報告書	2007
津和野市道跡(原田跡)の調査① 御使殿取居活用に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
安来市教育委員会	
史跡荒島古墳群・仲仙寺古墳群 整備事業報告書	2007
庄登遺跡 安来市埋蔵文化財調査報告書 第40集	2007
土居成道跡発掘調査報告書	2007
経塚鼻遺跡	2007
丹部宮古墳跡は統制調査報告書 柏太町埋蔵文化財調査報告書 第7集	2007
出雲市教育委員会	
河下台原遺跡 河下港遺跡改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
築山遺跡Ⅱ 県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
西谷橋六集群第2次群発掘調査報告書	2007
産業コミュニケーションセンター・幼稚園等複合施設建設事業に伴う 門前遺跡発掘調査報告書	2007
出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 上島古墳出土遺物・日御婦神社境内遺跡・東庭道	2007
平田市教育委員会	
現代道跡2 平田市埋蔵文化財調査報告書 第5集	2007
山根町古墳・西西郎塚寺 平田市埋蔵文化財調査報告書 第6集	2007
木島堂跡群 平田市埋蔵文化財調査報告書 第13集	2007
広島町教育委員会	
史跡富田城跡 環境整備事業報告書	2007
史跡飯古墳群 一般農道草野・横田跡(東比田工区)特別駐車事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
史跡富田城跡 環境整備事業報告書Ⅱ	2007
柏太町教育委員会	
シブタ遺跡発掘調査報告書 柏太町埋蔵文化財調査報告書 第4集	2007
益田市教育委員会	
広戸A遺跡調査報告書 益田市西見町埋蔵文化財調査報告書 第50集	2007
平内田遺跡調査報告書 益田市西見町埋蔵文化財調査報告書 第51集	2007
広戸B遺跡調査報告書 益田市西見町埋蔵文化財調査報告書 第52集	2007
下都茂原遺跡 益美地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書	2007
酒屋原遺跡 益美地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書	2007
森下遺跡 鳥根県美濃郡都町埋蔵文化財調査報告書Ⅱ	2007
平田遺跡発掘調査報告書 益田市中山間平田土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
国土交通省中国地方整備局 鳥根県教育委員会	
原田遺跡(3) 尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10	2008
家の後遺跡2 北原本郷遺跡2尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9	2008
「高市・地方道跡」Ⅱ・Ⅲ・ⅡB・ⅡD・ⅡE各区の調査 一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4	2008
余小宮遺跡・小宮遺跡、一般国道9号出雲バypass建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8	2008
鳥根県埋蔵文化財調査センター	
山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区(vol.2) 国道431号道路改築事業(東林本バypass)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅡV	2008

年鑑	2008
水郷のはより	2008
石見野の言伝	2008
史跡山代郷北新道院	2008
山持道跡・里方本郷道跡の調査	2008
古代出雲の郷	2008
おろちのいふき	2008
鳥取県教育委員会	
史跡山代郷北新道院	2008
平成18年度計画分布調査に伴う道跡範囲確認調査報告書「中道道跡範囲確認調査報告書」	2008
山持道跡・山3 国道341号道路改築事業(東林木バス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ	2008
東前田道跡・大谷口道跡 仲間道跡・金ヶ谷道跡1～3区	2007
国道431号道路改築事業(川津バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ	2008
岡山県 岡山県教育委員会	
中町B道跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 204	2007
下町陣屋跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 205	2007
津島道跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 206	2007
荒田道跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 207	2007
百間川敷長道跡4 百間川沢田道跡5 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 208	2007
純杜道跡 金井戸道跡 北清手道跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 209	2007
鹿田道跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 210	2007
塩納森井先道跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 211	2007
津島道跡7 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書 212	2007
岡山県古代百備文化財センター	
所蔵古備 第42号	2007
長瀬／高島のかみし 都市計画道路竹田井田線沿道の埋蔵文化財	2007
倉敷市教育委員会	
徳内北空路跡1号 下道跡 上東道跡 倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集	2007
岡山市教育委員会	
岡山市埋蔵文化財センター年報6 平成17(2005)年度	2007
東岡山道跡 中世後半から近世に連続する集落道跡の発掘調査報告	2007
彦崎貝塚2 範囲確認調査報告書	2007
神宮寺山古墳 瀬島茶臼山古墳	2007
荒田道跡 トコモ中国東古佐ビル新築工事に伴う発掘調査	2007
南井(済生会)道跡2 介護老人保健施設たちばな苑建設に伴う発掘調査	2007
岡山県埋蔵文化財報告書 37	2007
広島県 財団法人広島市文化財団	
広島城道跡西白島地点 一広島市中区西白島町所在一	2007
三谷道跡 一広島市安芸区中野東三丁目・中ノ東町所在一	2007
段之原山道跡 一広島市安芸区上瀬野町所在一	2007
広島島跡太田川河川事務所地点 一広島市中区八丁堀所在一	2007
南部山道跡発掘調査報告書 一広島市安佐南区上安所在一	2007
研究道路史冊	2007
(財)広島県教育事業団	
ひろしまの道跡 第99号	2007
ひろしまの道跡 第100号	2007
中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)	2008
中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(5)	2008
中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(6)	2008
近古道跡 恵安寺古文化形成基盤整備事業 西伊豆地区に係る発掘調査報告書	2008
広島大学大学院文学研究科	
奇和院道跡発掘調査年報ⅩⅪ	2007
福山市教育委員会	
広島県史跡 二子塚古墳発掘調査報告書	2007
福山市内道跡発掘調査概要Ⅰ	2007
財団法人 東広島市教育文化振興事業団	
西本5号道跡発掘調査報告書	2007
御土居道跡発掘調査報告書Ⅱ	2007
三太本郷地蔵跡詳細分布調査報告書	2007
史跡安芸因分寺跡発掘調査報告書Ⅲ	2007
阿岐のまほろば Vol.35	2007
阿岐のまほろば Vol.36	2007
広島市教育委員会	
史跡吉川氏城跡跡 吉川元春館跡整備事業報告書	2008
山口県 山口大学埋蔵文化財資料館	
山口大学埋蔵文化財資料館年報 一平成16年度一 山口大学埋蔵文化財資料館年報 2	2007
でらこや埋蔵 2006 春 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第3号	2007
でらこや埋蔵 2006 春 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第4号	2007
でらこや埋蔵 2006 夏 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第5号	2007
でらこや埋蔵 2006 秋 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第6号	2007
でらこや埋蔵 2007 冬 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第7号	2007
でらこや埋蔵 2007 春 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第8号	2007
古墳の世界 一山口県古墳を探る一 山口大学埋蔵文化財資料館 第21回 企画展図録	2007
山口大学の道跡 一吉田道跡編一 山口大学埋蔵文化財資料館 平成18年度 常設展図録	2007
福井道跡 一吉田のつづた とつた たづた一 山口大学埋蔵文化財資料館 創立30周年 記念特別展図録	2007
山口県埋蔵文化財センター	
山ノ瀬道跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第59集	2007
下村道跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第60集	2007
柳下道跡・今市道跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第61集	2007
真尾道跡の山道跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第62集	2007
陶師 第20号 山口県埋蔵文化財センター年報 一平成18年度一	2007
山口県教育委員会	
長門県道跡 山口県埋蔵文化財調査報告書 第189集	2007
下関市立考古博物館	
研究紀要 第11号	2007
下関市立考古博物館年報12 一平成18年度一	2007
「あやらぎ」17号 下関市立考古博物館だより	2007
木の文化 一ハレとケの世界一	2007

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	
『ひこま』 寺子屋の遺跡最前線！ ～	平成19年度土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム企画展示図録 2007
山口市教育委員会	
山口市埋蔵文化財年報 6	平成17(2005)年度 2007
善生寺遺跡	山口市埋蔵文化財調査報告書 第95集 2007
神部大塚遺跡Ⅳ	山口市埋蔵文化財調査報告書 第96集 2007
中込田遺跡Ⅳ	山口市埋蔵文化財調査報告書 第97集 2007
陶器跡群Ⅱ	山口市埋蔵文化財調査報告書 第98集 2007
防府市教育委員会	
平成17年度防府市内遺跡発掘調査概要	2008
防府市有形文化財調査報告 松崎地区(2)	2008
防府市有形文化財調査報告 松崎地区(3)	2008
高知県 高知大学人文学部考古学研究室	
大元神社古墳発掘調査報告書 高知大学考古学調査研究報告 第1冊	2007
高知市教育委員会	
尾戸家跡	高知市文化財調査報告書 第30集 2007
(財)高知県文化財埋蔵文化財センター	
北江堤寺跡	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第97集 2007
加茂・ハタノカノ遺跡群	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第98集 2007
高知県埋蔵文化財センター年報 第16号	2006年度 2007
徳島県 徳島市教育委員会	
徳島市埋蔵文化財発掘調査概要17	2007
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター	
立江馬道遺跡	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第64集 2007
西洲津遺跡・東洲津遺跡	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第67集 2007
観音寺遺跡Ⅱ (観音寺遺跡本編)	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第68集 2007
徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.17	平成17(2005)年度 2007
香川県 高松市教育委員会	
奥の坊道跡群Ⅴ(奥の坊道跡Ⅰ・Ⅱ区)	高松市埋蔵文化財調査報告書 第97集 2006
高松城跡(寺町一丁目)	高松市埋蔵文化財調査報告書 第99集 2007
諏訪神社遺跡 久米山道跡群 - 諏訪神社御旅所地区 -	高松市埋蔵文化財調査報告書 第100集 2007
高松市内道跡発掘調査概観	高松市埋蔵文化財調査報告書 第101集 2007
特別史跡遺跡分令跡 如意輪寺跡 国分寺道跡 鬼子山道跡	高松市埋蔵文化財調査報告書 第102集 2007
白山神社古墳	高松市埋蔵文化財調査報告書 第103集 2007
高松城跡(寺町二丁目地区)	高松市埋蔵文化財調査報告書 第104集 2007
日暮・松林道跡	高松市埋蔵文化財調査報告書 第105集 2007
平石上2号墳 石倉池古墳群	高松市埋蔵文化財調査報告書 第106集 2007
尾島寺	高松市埋蔵文化財調査報告書 第107集 2007
奥の坊道跡群Ⅵ(奥の坊道跡Ⅴ区)	高松市埋蔵文化財調査報告書 第108集 2007
石垣基礎調査報告書 史跡高松城跡整備報告書 第1分冊	2008
石垣基礎調査報告書 史跡高松城跡整備報告書 第2分冊	2008
愛媛県 松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習普及財団埋蔵文化財センター	
松山大内道跡Ⅰ	第6次調査 - 松山市文化財調査報告書 第115集 2007
堀が崎道跡Ⅰ	松山市文化財調査報告書 第116集 2007
大崎・台道跡 - 10次調査 -	松山市文化財調査報告書 第119集 2007
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	
高橋佐夜ノ谷Ⅱ道跡2次	埋蔵文化財発掘調査報告書 第132集 2007
豊原道跡1・2次	埋蔵文化財発掘調査報告書 第133集 2007
熱田城跡 柿の木西法寺道跡 長松寺城跡	埋蔵文化財発掘調査報告書 第134集 2007
角ノ谷城跡2次	埋蔵文化財発掘調査報告書 第135集 2007
都板井道跡	埋蔵文化財発掘調査報告書 第136集 2007
都板井道跡2次	埋蔵文化財発掘調査報告書 第137集 2007
阿方頭王Ⅷ道跡・阿方頭王Ⅸ道跡・阿方頭Ⅹ道跡・阿方頭Ⅺ道跡・阿方頭Ⅻ道跡・阿方頭Ⅼ道跡・阿方頭Ⅽ道跡	埋蔵文化財発掘調査報告書 第138集 2007
別名宮谷Ⅰ道跡・別名宮谷Ⅱ道跡・別名成ノ谷道跡・別名寺谷Ⅰ道跡・別名寺谷Ⅱ道跡	埋蔵文化財発掘調査報告書 第139集 2007
愛比売(さひめ) - 平成18(2006)年度年報 -	2007
紀要愛媛 第7号 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター研究紀要	2007
第4回 西国地区埋蔵文化財センター合同展「愛媛へんろ」	道跡めぐり伊豫・土佐・道跡・阿波 2007
鬼北町教育委員会	
第5回市域内 埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集	2007
今治市教育委員会	
史跡 能島城跡 - 平成13・14年度保存整備事業報告書 -	今治市埋蔵文化財調査報告書 第81集 2007
史跡 能島城跡 - 平成15・16年度石橋ビュウ調査報告書 -	今治市埋蔵文化財調査報告書 第82集 2007
市内道跡試掘調査報告書ⅩⅢ	今治市埋蔵文化財調査報告書 第83集 2007
市内道跡試掘調査報告書ⅩⅣ	今治市埋蔵文化財調査報告書 第84集 2007
史跡 能島城跡 - 平成17年度船だり調査報告書 -	今治市埋蔵文化財調査報告書 第85集 2007
高橋佐夜ノ谷Ⅱ道跡	今治市埋蔵文化財調査報告書 第86集 2007
松山市教育委員会	
松山八雲西道跡群調査報告書2	松山市文化財調査報告書 第114集 2007
東野斎ノ木道跡1・2・3・4次調査地、榑味立道跡3次調査地、榑味高木道跡7・8・9・11次調査地、榑味西反地道跡7・8・9・11次調査地、枝	2007
松道跡6次調査地	松山市文化財調査報告書 第117集 2007
南海本上方道跡1次・2次調査地、南海本長広道跡1次・2次調査地	松山市文化財調査報告書 第118集 2007
中村地区の道跡	松山市文化財調査報告書 第120集 2007
愛媛大学 埋蔵文化財調査室	
文政道跡Ⅴ - 文京道跡18次調査報告 -	2008
愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 2004年度 -	2008
愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 2005年度 -	2008
福岡県 粕屋町教育委員会	
阿志原口道跡	粕屋町文化財調査報告書 第21集 2004
戸原堀ノ内道跡第2地点	粕屋町文化財調査報告書 第25集 2007
柳川市教育委員会	
磯島ツツノ道跡	柳川市文化財調査報告書 第1集 2006
小都市教育委員会	
津古平道跡4	小都市文化財調査報告書 第184集 2003
ふるさと小都市のあゆみ	2007
八坂末安道跡	小都市文化財調査報告書 第215集 2007
三沢北中尾道跡8・9	小都市文化財調査報告書 第217集 2007
松崎岩北溝口・南溝口	小都市文化財調査報告書 第218集 2007

三沢南崎道跡	小都市文化財調査報告書 第220集	2007
大塚崎・道跡	小都市文化財調査報告書 第223集	2007
福原町道跡4・6	福原町文化財調査報告書 第226集	2007
井上小松山道跡3・4	小都市文化財調査報告書 第227集	2007
千鶴下道跡	小都市文化財調査報告書 第231集	2007
三沢市中央地区11A地点	小都市文化財調査報告書 第232集	2007
宮崎市教育委員会		
感田野添道跡	直方市文化財調査報告書 第31集	2006
惣用道跡	直方市文化財調査報告書 第32集	2006
飯野和田道跡	直方市文化財調査報告書 第33集	2006
下塚跡道跡	直方市文化財調査報告書 第34集	2007
阿蘇市教育委員会		
城所道跡1地区	阿蘇市文化財調査報告書 第37集	2007
神所道跡1地区(古川道跡)	阿蘇市文化財調査報告書 第38集	2007
阿蘇道跡群1地区	阿蘇市文化財調査報告書 第39集	2007
阿蘇の国の成立！	一登前地方出土古銅器— 2007年度の特別展図録	2007
大野城市教育委員会		
牛頭崎頭道跡群1	大野城市文化財調査報告書 第60集	2007
仲島本間尺・唐土道跡	大野城市文化財調査報告書 第72集	2007
牛頭小山道跡群2	大野城市文化財調査報告書 第73集	2007
大野城市の文化財	第39集	2007
九州大学総合研究博物館		
九州大学総合研究博物館ニュース (No.8)		2007
九州大学総合研究博物館研究報告 第5号		2007
筑後県教育委員会		
岩屋津道跡	東峰村文化財調査報告書 第1集	2007
久留米市教育委員会		
久留米市埋蔵文化財年報 Vol.3 平成16・17年度版		2007
久留米城外郭道跡 第10次調査	久留米市文化財調査報告書 第234集	2006
筑後国府跡 第210次調査	久留米市文化財調査報告書 第235集	2006
京原跡寺敷道跡 第6次調査	久留米市文化財調査報告書 第236集	2006
上青木北大門道跡	久留米市文化財調査報告書 第237集	2006
藤原氏屋敷道跡 第7次調査	久留米市文化財調査報告書 第238集	2006
藤田道跡 第3次調査	久留米市文化財調査報告書 第239集	2006
水洗道跡 第4次調査	久留米市文化財調査報告書 第240集	2006
久留米市埋蔵文化財調査報告書	久留米市文化財調査報告書 第241集	2006
十間塚道跡 第2次調査	久留米市文化財調査報告書 第242集	2006
二本木道跡群IV	久留米市文化財調査報告書 第243集	2007
日笠道跡群V・白川道跡 第5次調査	久留米市文化財調査報告書 第244集	2007
南蔵道跡 第6次調査	久留米市文化財調査報告書 第245集	2007
海明寺境道跡 第1・2次調査	久留米市文化財調査報告書 第246集	2007
久留米市埋蔵文化財調査報告書	久留米市文化財調査報告書 第247集	2007
平成18年度 久留米市内道跡群	久留米市文化財調査報告書 第248集	2007
筑後国府跡(園分寺跡)・平成18年度発掘調査報告書・概要報告書	久留米市文化財調査報告書 第249集	2007
筑後国三浦郡跡道跡	久留米市文化財調査報告書 第250集	2007
筑後国府跡(園分寺跡)		2007
久留米市埋蔵文化財センター		
まゐらん久留米 第6号		2007
北九州市立自然史・歴史博物館		
北九州市立自然史・歴史博物館研究報告B巻(歴史)第4号		2007
基山町教育委員会		
伊野道跡群	基山町文化財調査報告書 第5集	2007
基山町教育委員会		
白井古墳群	基山町文化財調査報告書 第1集	2007
基山町教育委員会		
御塚古墳	基山町文化財調査報告書 第5集	2002
基山町教育委員会		
水間寺元道跡	基山町文化財調査報告書 第91集	2007
大分県教育委員会		
史跡下高橋道跡V	大分県文化財調査報告書 第30集	2006
下高橋道跡群3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・120・121・122・123・124・125・126・127・128・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148・149・150・151・152・153・154・155・156・157・158・159・160・161・162・163・164・165・166・167・168・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・200・201・202・203・204・205・206・207・208・209・210・211・212・213・214・215・216・217・218・219・220・221・222・223・224・225・226・227・228・229・230・231・232・233・234・235・236・237・238・239・240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・250・251・252・253・254・255・256・257・258・259・260・261・262・263・264・265・266・267・268・269・270・271・272・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・284・285・286・287・288・289・290・291・292・293・294・295・296・297・298・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・310・311・312・313・314・315・316・317・318・319・320・321・322・323・324・325・326・327・328・329・330・331・332・333・334・335・336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354・355・356・357・358・359・360・361・362・363・364・365・366・367・368・369・370・371・372・373・374・375・376・377・378・379・380・381・382・383・384・385・386・387・388・389・390・391・392・393・394・395・396・397・398・399・400・401・402・403・404・405・406・407・408・409・410・411・412・413・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・429・430・431・432・433・434・435・436・437・438・439・440・441・442・443・444・445・446・447・448・449・450・451・452・453・454・455・456・457・458・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・479・480・481・482・483・484・485・486・487・488・489・490・491・492・493・494・495・496・497・498・499・500・501・502・503・504・505・506・507・508・509・510・511・512・513・514・515・516・517・518・519・520・521・522・523・524・525・526・527・528・529・530・531・532・533・534・535・536・537・538・539・540・541・542・543・544・545・546・547・548・549・550・551・552・553・554・555・556・557・558・559・560・561・562・563・564・565・566・567・568・569・570・571・572・573・574・575・576・577・578・579・580・581・582・583・584・585・586・587・588・589・590・591・592・593・594・595・596・597・598・599・600・601・602・603・604・605・606・607・608・609・610・611・612・613・614・615・616・617・618・619・620・621・622・623・624・625・626・627・628・629・630・631・632・633・634・635・636・637・638・639・640・641・642・643・644・645・646・647・648・649・650・651・652・653・654・655・656・657・658・659・660・661・662・663・664・665・666・667・668・669・670・671・672・673・674・675・676・677・678・679・680・681・682・683・684・685・686・687・688・689・690・691・692・693・694・695・696・697・698・699・700・701・702・703・704・705・706・707・708・709・710・711・712・713・714・715・716・717・718・719・720・721・722・723・724・725・726・727・728・729・730・731・732・733・734・735・736・737・738・739・740・741・742・743・744・745・746・747・748・749・750・751・752・753・754・755・756・757・758・759・760・761・762・763・764・765・766・767・768・769・770・771・772・773・774・775・776・777・778・779・780・781・782・783・784・785・786・787・788・789・790・791・792・793・794・795・796・797・798・799・800・801・802・803・804・805・806・807・808・809・810・811・812・813・814・815・816・817・818・819・820・821・822・823・824・825・826・827・828・829・830・831・832・833・834・835・836・837・838・839・840・841・842・843・844・845・846・847・848・849・850・851・852・853・854・855・856・857・858・859・860・861・862・863・864・865・866・867・868・869・870・871・872・873・874・875・876・877・878・879・880・881・882・883・884・885・886・887・888・889・890・891・892・893・894・895・896・897・898・899・900・901・902・903・904・905・906・907・908・909・910・911・912・913・914・915・916・917・918・919・920・921・922・923・924・925・926・927・928・929・930・931・932・933・934・935・936・937・938・939・940・941・942・943・944・945・946・947・948・949・950・951・952・953・954・955・956・957・958・959・960・961・962・963・964・965・966・967・968・969・970・971・972・973・974・975・976・977・978・979・980・981・982・983・984・985・986・987・988・989・990・991・992・993・994・995・996・997・998・999・1000		

附属法人 北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室		
居住古立遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第360集	2007
居住園田遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第361集	2007
小倉城・ノノ路第3地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第362集	2007
大門遺跡第3地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第363集	2007
黒崎城跡2	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第364集	2007
黒崎跡1K・2K	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第365集	2007
長野尾登遺跡第4地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第366集	2007
横沢城跡遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第367集	2007
北方遺跡第10・11次調査	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第368集	2007
石田・岡田敷遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第369集	2007
小倉城跡町11跡・大門遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第370集	2007
長野尾登遺跡第2地点(K区)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第371集	2007
大下町遺跡(小倉城外城跡)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第372集	2007
京町跡院遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第373集	2007
中島遺跡2(第2次調査)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第374集	2007
黒崎城跡3	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第375集	2007
黒崎城跡4(6・7F区)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第376集	2007
黒崎城跡5	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第377集	2007
島山遺跡(住居点)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第378集	2007
長野尾登遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第379集	2007
紅堀(A)遺跡4(第5次調査)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第380集	2007
研究紀要 - 第21号 -		2007
埋蔵文化財調査半年報23		2007
福岡県教育委員会		
東園池大内曲り遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス附帯埋蔵文化財調査報告書 第2集	2007
矢加部町野原遺跡1	有明海沿岸道路大川バイパス附帯埋蔵文化財調査報告書 第3集	2007
吾妻遺跡Ⅱ	一般財団2011号神良改良1,2,3附帯埋蔵文化財調査報告書 2	2007
山門北池遺跡	九州新幹線南側埋蔵文化財調査報告書 第6集	2007
小川原・八田遺跡Ⅰ	九州新幹線南側埋蔵文化財調査報告書 第7集	2007
九州歴史資料館		
九歴だより No.24		2006
九歴だより No.25		2007
九州歴史資料館 研究論集 32		2007
九州歴史資料館年報(平成18年度)		2007
前原市教育委員会		
三雲・丹原遺跡	一畑・下西地区一 前原市文化財調査報告書 第90集	2006
池田井田遺跡	前原市文化財調査報告書 第91集	2006
三雲・丹原遺跡	前原市文化財調査報告書 第92集	2006
興地給遺跡Ⅰ	前原市文化財調査報告書 第93集	2006
国指定史跡 枯土城跡	前原市文化財調査報告書 第94集	2006
神在郷家(庄七)2	前原市文化財調査報告書 第95集	2006
興地給遺跡Ⅱ	前原市文化財調査報告書 第96集	2007
伊都歴史博物館		
伊都4歴史博物館紀要 創刊号		2006
伊都4歴史博物館紀要 第2号		2007
伊都4歴史博物館年報 一 平成16年度 -		2007
伊都4歴史博物館年報2 一 平成17年度 -		2007
藤村教育委員会		
本河内遺跡Ⅰ	幸村文化財調査報告書 第2集	2007
稲庭市教育委員会		
原町原遺跡	稲庭町文化財調査報告書 第26集	2007
行橋市歴史資料館		
倉田城跡の歴史 - 竹並遺跡からのメッセージ -	平成19年度特別展	2007
筑後市教育委員会		
筑山遺跡Ⅱ	筑後市文化財調査報告書 第74集	2007
井田古墳敷遺跡	筑後市文化財調査報告書 第75集	2007
野町奈敷遺跡	筑後市文化財調査報告書 第76集	2007
孤塚遺跡	筑後市文化財調査報告書 第77集	2007
一条小原遺跡	筑後市文化財調査報告書 第78集	2007
筑後市内遺跡群	筑後市文化財調査報告書 第79集	2007
山内良ノヤツ遺跡	筑後市文化財調査報告書 第80集	2007
筑後立野遺跡	筑後市文化財調査報告書 第81集	2007
藤原大谷遺跡	筑後市文化財調査報告書 第82集	2007
九州国立博物館		
鳥と魚のうた - 館前山のやまの		2006
エイサー・ハーリー - きゅーはくの絵本③神鹿の祭り		2006
はらの なかの はらっぱで きゅーはくの絵本④針問書		2006
ぞくぞく そでぞく きゅーはくの絵本⑤人物絵巻		2007
特別展 未来への贈りもの 中国泰山石経と浄土教美術		2007
日本のやまの		2007
観音聖人7504大違忌記念 本願寺展 観音と仏教伝来の道		2007
朝鮮白磁 - 緑白・乳白・青白の器		2007
飯塚市教育委員会		
久保遺跡Ⅱ	飯塚市文化財調査報告書 第32集	2007
北九州市教育委員会		
高見遺跡(第4地点)	北九州市文化財調査報告書 第111集	2007
永町遺跡	北九州市文化財調査報告書 第112集	2007
蛇神塚古墳2	一 第2次・3次・4次調査一 北九州市文化財調査報告書 第113集	2007
室町遺跡第19地点・敷地町遺跡	北九州市文化財調査報告書 第114集	2007
藤川町教育委員会		
藤川町文化財調査報告書第69集「熊頭遺跡Ⅱ」		2007
藤川町文化財調査報告書第70集「栗田遺跡」		2007
福寿市教育委員会		
福寿市文化財調査報告書 第1集「宮司大モテタイ遺跡 第4時調査」		2006
津屋崎町教育委員会		
津屋崎町文化財調査報告書 第22集「津屋崎遺跡」		2005

奈良市教育委員会	『奈良古墳』奈良市文化財調査報告書 第58集	2007
	『田野瀬戸古墳』奈良市文化財調査報告書 第59集	2007
万葉町教育委員会	伊方小学校遺跡(第二・三地点) 宝珠遺跡 万葉町文化財調査報告書第4集	1997
	伊方古墳 野添遺跡群 万葉町文化財調査報告書第5集	1999
	伊方古墳 万葉町文化財調査報告書第6集	2003
	金山遺跡 県営農地環境整備事業(畑地区)関係埋蔵文化財調査報告書第1集・万葉町文化財調査報告書第8集	2005
	出口遺跡・長瀬遺跡 県営農地環境整備事業(畑地区)関係埋蔵文化財調査報告書第2集・万葉町文化財調査報告書第9集	2006
	船指定史跡 伊方古墳 万葉町文化財調査報告書第1集	2007
	九州大学総合研究博物館	
佐賀県	九州大学総合研究博物館研究報告第6号	2007
	九州大学総合研究博物館年報第2号	2007
	2007年度九州大学総合研究博物館概要	2007
遠賀町教育委員会	『尾崎・天妙遺跡Ⅴ・金丸遺跡Ⅱ』 遠賀町文化財調査報告書第18集	2007
	福岡市埋蔵文化財センター	
福岡市教育委員会	福岡市埋蔵文化財センター年報 第26号	2008
	飯塚市教育委員会	
飯塚市教育委員会	狩場・一ツ宮・古賀ノ下・重吉・榎木遺跡群 飯塚市文化財調査報告書 第34集	2008
	福岡市埋蔵文化財センター	
佐賀県	福岡市埋蔵文化財センター基本構想	2008
	佐賀県教育庁文化課	
佐賀県教育委員会	佐賀県文化財年報12(2005年度)	2007
	鹿島市教育委員会	
鹿島市教育委員会	浜町風山宗跡 鹿島市文化財調査報告書 第16集	2007
	天神遺跡 鹿島市文化財調査報告書 第17集	2007
佐賀県教育委員会	戦場古墳群 佐賀県文化財調査報告書 第140集	1999
	柳比遺跡群4 分析編 佐賀県文化財調査報告書 第158集	2003
	中原遺跡1 佐賀県文化財調査報告書 第168集	2007
	幸津遺跡 佐賀県文化財調査報告書 第169集	2007
	東飯瀬遺跡1・大野遺跡1 佐賀県文化財調査報告書 第170集	2007
	佐賀県内遺跡確認調査報告書25 佐賀県文化財調査報告書 第171集	2007
	特別史跡 名護屋城跡群(2)に隣接7 名護屋城跡山里口石垣修理報告書 佐賀県文化財調査報告書第111集	1992
	唐津市教育委員会	
	唐津市内遺跡確認調査(23) 唐津市文化財調査報告書 第133集	2007
	葉山段石古墳群・葉山段古墳2号墳・森田支石墓・瀬戸口支石墓 唐津市文化財調査報告書 第134集	2007
	伊入遺跡(2) 唐津市文化財調査報告書 第135集	2007
	荒平遺跡 唐津市文化財調査報告書 第136集	2007
	道納屋京跡 唐津市文化財調査報告書 第137集	2007
佐賀県教育委員会	平松京跡 唐津市文化財調査報告書 第138集	2007
	星賀城家群跡 唐津市文化財調査報告書 第139集	2007
	呼子町内遺跡発掘調査 唐津市文化財調査報告書 第140集	2007
	佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 一2002～2004年度一 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第11集	2007
	佐賀藩馬場所跡 一2区の調査一 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第12集	2007
	西中野遺跡1 一6～8区の調査一 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第13集	2007
	藤木三本杉遺跡群 一4～5区の調査一 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第14集	2007
	西中野遺跡1 一3区の調査一 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第15集	2007
	大車遺跡 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第16集	2007
	村松末遺跡 一20区の調査一 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第17集	2007
	久保田町教育委員会	
	上恒安遺跡4区 久保田町文化財調査報告書 第2集	1997
	上恒安遺跡5区 久保田町文化財調査報告書 第7集	2007
	上恒安遺跡3区 久保田町文化財調査報告書 第8集	2007
小城市教育委員会	小城市の建造物	2006
	久蘇遺跡(6～19区) 小城市文化財調査報告書 第3集	2007
小城市教育委員会	久蘇遺跡 小城市文化財調査報告書 第4集	2007
	柳比遺跡群 小城市文化財調査報告書 第5集	2007
	牛津乙宮神社跡 3 小城市文化財調査報告書 第6集	2007
小城市立歴史資料館・小城市立中村梧竹記念館	調査研究報告書第2集 平成17年度事業報告	2007
	武雄市教育委員会	
長崎県	武雄市の文化財	2007
	松浦市教育委員会	
松浦市教育委員会	松浦市内遺跡確認調査(1) 松浦市文化財調査報告書 第1集	2007
	長崎県佐賀市教育委員会	
佐賀市教育委員会	特別史跡 原の辻遺跡 佐賀市文化財調査報告書 第10集	2007
	天石長井神社跡 原の辻遺跡 カサカサ遺跡 佐賀市文化財調査報告書 第11集	2007
大村市教育委員会	市内遺跡発掘調査概報 1 大村市文化財調査報告書 第30集	2007
	国史跡大村藩大村家墓所保存管理計画書	2007
諫早市教育委員会	下峰原高塚遺跡 諫早市埋蔵文化財調査協議会報告書 第4集	2002
	尾谷谷城跡 諫早市文化財調査報告書 第16集	2004
	小野瀬口遺跡 諫早市文化財調査報告書 第17集	2005
	風見島石倉群 諫早市文化財調査報告書 第19集	2006
	諫早市文化財調査年報1(平成9年度～平成17年度) 諫早市文化財調査報告書 第20集	2007
	熊本県	
水川町教育委員会	大野原古墳 水川町文化財調査報告書 第1集	2007
	八代市立博物館未来の森ミュージアム	
八代市教育委員会	松井文庫所蔵古文書調査報告書 十二	2007
	宇土市教育委員会	
宇土市教育委員会	平土地区(西田町) 平土市埋蔵文化財調査報告書 第29集	2007
	八代市教育委員会	
八代市教育委員会	上戸渡女夫木遺跡 八代市文化財調査報告書 第26集	2005
	用七遺跡 八代市文化財調査報告書 第27集	2005

熊本大学文学部考古学研究室	
阿蘇における旧石器文化の研究 熊本大学文学部考古学研究室研究報告 第2集	2007
考古学研究室報告 第42集	2007
歴史公園陶管城・温故新館	
陶管城跡 第28次調査報告	2007
植木町教育委員会	
石川遺跡(第1分冊・第2分冊) 植木町文化財調査報告書 第14集	2002
熊本大学埋蔵文化財調査室	
熊本大学埋蔵文化財調査室年報 12	2007
熊本大学構内遺跡発掘調査報告書 熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第3集	2007
山鹿市教育委員会	
市内遺跡確認調査 山鹿市立博物館調査報告書 第11集	1991
中谷本遺跡 中古閑地区駅舎建設体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要	2007
原部館跡 山鹿市文化財調査報告 第1集	2006
方保田東原遺跡(7) 山鹿市文化財調査報告 第2集	2006
中谷本遺跡 山鹿市文化財調査報告 第3集	2007
方保田東原遺跡(8) 山鹿市文化財調査報告 第4集	2007
方保田神社裏古墳 山鹿市文化財調査報告 第5集	2007
相良村教育委員会	
入口遺跡 相良村文化財調査報告 第6集	2007
合志市教育委員会	
鏡ノ内遺跡 熊本市合志市文化財調査報告書 第1集	2007
菊池町教育委員会	
関部館跡Ⅱ 菊池町文化財調査報告 第11集	2005
大分県立歴史博物館	
大分県立歴史博物館 研究紀要 8	2007
豊後国東郷3 国東半島荘園村落遺跡群跡分布調査概報	2007
大分発掘ものがたり—よみがえる郷土の歴史—	2007
大分県立歴史博物館年報	2007
大分県立先哲史料	
史料館研究紀要 第11号	2006
収蔵史料目録 5	2007
坂ノ市地区郷土史愛好会	
白水邸(あま) 第24号 坂ノ市地区郷土史愛好会報	2007
別府市教育委員会	
春木方元遺跡 春木方元遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
春木方元遺跡古寺地区 春木方元遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
宇佐市教育委員会	
北平遺跡Ⅱ 国道10号宇佐地区歩道設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
瓦塚遺跡 宇佐地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ	2006
宇佐地区遺跡群発掘調査概報15 平成14～18年度調査の概報	2007
中津市教育委員会	
神代地区全里跡 手渡地区・帯地区・尻門地区 東浜遺跡 大新田西番通地区 足利津瀬地区 大貞馬場池地区 中津城下町遺跡 豊後町地区・殿町地区 中津城(VI) 中津市文化財調査報告 第42集	2007
九重町教育委員会	
九重町歴史資料館年報	2007
平家山 九重町文化財調査報告 第31輯	2007
竹田市教育委員会	
埋蔵文化財発掘調査報告書 国道502号改良工事に伴う	
南方家屋敷跡 泉道竹田玉来線改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書	2004
市川遺跡 平原遺跡 経営体育成基盤整備事業(竹田北部地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
城下町遺跡(田代家武家屋敷跡) 都市計画道路竹田玉来線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
竹田地区遺跡群 岡本地区 久住南部地区 下坂田地区 小高野地区 城原北部地区 太田地区	2007
史跡 岡城跡 平成18年度史跡岡城跡保存修理事業報告書	2007
国道502号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2008
日田市教育委員会	
祝原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第61集	2005
大肥中村遺跡Ⅰ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第62集	2006
大肥下河内遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第63集	2006
大肥祝原遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第64集	2006
高野遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第65集	2006
大肥遺跡Ⅱ —B・C区の調査の記録— 日田市埋蔵文化財調査報告書 第66集	2006
大肥遺跡Ⅲ —A・2区の調査概要— 日田市埋蔵文化財調査報告書 第67集	2006
一丁田遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第68集	2006
尾瀬2号墳 日田市埋蔵文化財調査報告書 第69集	2006
徳瀬遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第71集	2006
中川原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第72集	2006
長者原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第73集	2006
大沢渡路4次 日田市埋蔵文化財調査報告書 第74集	2007
徳瀬山遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第75集	2007
上井手遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第76集	2007
求来里平島遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第77集	2007
長者原遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第78集	2007
慈原遺跡Ⅲ —F・H区の調査報告— 日田市埋蔵文化財調査報告書 第79集	2007
瀬々本遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第80集	2007
祇園原遺跡Ⅱ (弥生・古墳時代遺構編) 日田市埋蔵文化財調査報告書 第81集	2007
日田市埋蔵文化財目録 平成17年度(2005年度)	2007
大分県埋蔵文化財センター	
大分県埋蔵文化財年報15(平成17年度のまとめ)	2007
一般国道57号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	
大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第12集	2007
一般国道57号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)	
大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第13集	2007
岡通跡群 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第14集	2007
豊後府内6 中世大友府内町跡第10次調査区 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第15集	2007
豊後府内7 中世大友府内町跡第20次調査区 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第16集	2007
北小坂北遺跡・野田遺跡 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第17集	2007
古庄原遺跡Ⅱ 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第18集	2007

市用道路	大分県教育庁理蔵文化財センター調査報告書 第19集	2007	
国道跡群	上辻道路発掘調査報告書 大分県教育庁理蔵文化財センター調査報告書 第20集	2007	
岩倉遺跡	発掘調査報告書 大分県教育庁理蔵文化財センター調査報告書 第21集	2007	
大分県内諸跡発掘調査概観10		2007	
大分市根尾遺跡跡地調査委員会			
根尾遺跡保存整備方針・活用基本構想案報告書		2008	
宮崎県 西部市教育委員会			
西部原地区遺跡・日向国分寺跡	西部市理蔵文化財発掘調査報告書 第49集	2007	
空ヶ崎遺跡、上妻遺跡、童子丸遺跡、石貫遺跡	西部市理蔵文化財発掘調査報告書 第50集	2007	
都が都城跡	西部市理蔵文化財発掘調査報告書 第51集	2007	
西部原古墳群調査所・年報 第23号 平成18年度		2007	
福岡県 福岡市教育委員会			
錦堂原遺跡(第2次)	携帯電話無線基地局建設に伴う理蔵文化財発掘調査報告書	2007	
市内遺跡	平成18年度市内遺跡発掘調査事業に伴う理蔵文化財発掘調査報告書	2007	
高知県教育委員会			
高知町理蔵文化財調査報告書 第14集	町内遺跡発掘調査報告書 ～持田遺跡確認調査2・持田古墳群古墳範囲確認調査5～	2007	
高城町教育委員会			
教ノ原遺跡群	高城町文化財調査報告書第20集	2005	
綾町教育委員会			
細々野遺跡	綾町理蔵文化財調査報告書第7集	2004	
榎原遺跡	綾町理蔵文化財調査報告書第8集	2005	
綾町内遺跡Ⅴ	綾町理蔵文化財調査報告書第9集	2005	
小平谷第1遺跡	綾町理蔵文化財調査報告書第10集	2006	
綾町内遺跡Ⅵ	綾町理蔵文化財調査報告書第11集	2007	
小平谷第1遺跡	綾町理蔵文化財調査報告書第12集	2007	
都城市教育委員会			
鶴北北原遺跡	都城市文化財調査報告書 第83集	2007	
早馬遺跡	都城市文化財調査報告書 第84集	2008	
都城市文化財調査報告書 第85集		2008	
加治原B遺跡(平安時代・中世)	都城市文化財調査報告書 第86集	2008	
平田遺跡 A地点・B地点・C地点	都城市文化財調査報告書 第87集	2008	
鍋前第5遺跡	船場中山間地域複合整備事業高崎地区に伴う発掘調査報告書	2008	
えびの市教育委員会			
北岡松地区遺跡群	えびの市理蔵文化財調査報告書 第46集	2008	
606号大橋えびの線新設並びに開通工事に伴う理蔵文化財調査報告書	えびの市理蔵文化財調査報告書47集	2008	
えびの市の城跡群	えびの市理蔵文化財調査報告書 第45集	2008	
鹿児島県 指宿市教育委員会			
橋本礼川遺跡Ⅵ	指宿市理蔵文化財発掘調査報告書 第16集	1994	
橋本礼川遺跡ⅩⅠ	指宿市理蔵文化財発掘調査報告書 第21集	1996	
平成17年度市内遺跡確認調査報告書(教員遺跡・南迫田遺跡・新香所後遺跡)	指宿市理蔵文化財発掘調査報告書 第39集	2007	
株式会社ニシキタ店舗建設に伴う発掘調査報告書 新香所後遺跡	指宿市理蔵文化財発掘調査報告書 第40集	2007	
平成18年度市内遺跡確認調査報告書(教員遺跡・豊田遺跡)	指宿市理蔵文化財発掘調査報告書 第41集	2007	
指宿市考古博物館			
博物館年報・紀要 第6号	平成15・16年度	2005	
博物館年報・紀要 第7号	平成17・18年度	2007	
出水市教育委員会			
柴ノ口遺跡	出水市理蔵文化財発掘調査報告書(15)	2006	
鹿児島県立理蔵文化財センター			
堂平遺跡(第1～3分冊)	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (106)	2006	
前原遺跡(第1～2分冊)	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (107)	2007	
安原遺跡A地点 古殿跡跡地跡 折戸平遺跡 山神遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (108)	2007	
山ノ内遺跡B地点 新野B遺跡 松ヶ尾遺跡 谷々遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (109)	2007	
仁田中A・B遺跡(第1～3分冊)	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (110)	2007	
魚見ヶ原遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (111)	2007	
諏訪平田遺跡	諏訪前遺跡 南原内堀遺跡 加治原堀遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (112)	2007
上水流通跡1	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (113)	2007	
中原山野遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (114)	2007	
前山遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (115)	2007	
上山路山遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (116)	2007	
市堀遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (117)	2007	
安茶ヶ原遺跡	鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書 (118)	2007	
金峰町教育委員会			
芝原B遺跡	金峰町理蔵文化財発掘調査報告書 (21)	2005	
南さつま市教育委員会			
二須遺跡・花袋岡地遺跡	南さつま市理蔵文化財発掘調査報告書 (1)	2006	
春ノ山遺跡	南さつま市理蔵文化財発掘調査報告書 (2)	2007	
松坂遺跡・大田ヶ野遺跡	南さつま市理蔵文化財発掘調査報告書 (3)	2007	
出原遺跡・有村遺跡・小原遺跡・瀬戸口遺跡	南さつま市理蔵文化財発掘調査報告書 (4)	2007	
鹿児島大学理蔵文化財調査室			
鹿児島大学構内遺跡都元団地I-9区	鹿児島大学理蔵文化財調査室調査報告書 第2集	2006	
鹿児島大学構内遺跡都元団地Q-10区	鹿児島大学構内遺跡都元団地I-4・L-5-6区	2007	
鹿児島大学理蔵文化財調査室調査報告書 第3集		2007	
野田町教育委員会			
大島遺跡	野田町理蔵文化財発掘調査報告書 (1)	2006	
出水市教育委員会			
市内遺跡(上馬遺跡地)発掘調査等報告書	出水市理蔵文化財発掘調査報告書 (16)	2007	
大久保遺跡跡・大久保B遺跡	出水市理蔵文化財発掘調査報告書 (17)	2007	
野田島遺跡	出水市理蔵文化財発掘調査報告書 (18)	2007	
川辺町教育委員会			
土器遺跡	川辺町理蔵文化財発掘調査報告書 (8)	2007	
青野平遺跡	川辺町理蔵文化財発掘調査報告書 (9)	2007	
多々多遺跡・土器持野遺跡	川辺町理蔵文化財発掘調査報告書 (10)	2007	
津フジ遺跡	川辺町理蔵文化財発掘調査報告書 (11)	2007	
九王遺跡 増海上遺跡	川辺町理蔵文化財発掘調査報告書 (12)	2007	
南種子町教育委員会			
広田遺跡	南種子町理蔵文化財発掘調査報告書(15)	2007	
薩島市教育委員会			
真田原遺跡	鹿児島県整備事業(鹿児島中央地区)に伴う理蔵文化財発掘調査報告書	2008	

宮城県教育委員会 宮城県埋蔵文化財センター	
元増巻追跡 佐野市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	2006
片浜下追跡 佐野市埋蔵文化財発掘調査報告書(6)	2006
南さつま市教育委員会	
上茂追跡 南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	2006
沖縄県 うるま市教育委員会	
市内道路発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成17年度 うるま市文化財調査報告書 第2集	2007
具志川グスク1 発掘調査報告書概観1 うるま市文化財調査報告書 第4集	2007



文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(ますぐみ)のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

(昭和41年5月26日決定)

大分市埋蔵文化財調査年報 19
2008

発行日
平成20年12月26日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課
大分市荷揚町2番31号
〒870-0025 (097)534-6111
